

『繡像百人 狂言弄花集』 (翻刻・下)

本稿は本誌前号(平成八年三月)の「翻刻・上」に続くもので、凡例等はそれを参照されたい。また解題の意味をもこめて『繡像百人狂言弄花集』の成立とその意義「芸能文化史」第十四号、平成八年十二月)を執筆しておいたので、これまた参看願いたい。本稿では紙面の都合により、初めに初版の無刊記板と後印の文化十四年板の本文異同、次いで前号訂正を記し、翻刻の後に入集者索引を付す。

本文異同(丁付と人名を見出しとして「無刊記板→文化十四年板」の形で示す)

- 一 オ・織田右大臣「(を)し」けれ」↓「(を)し」かる」
- 一 ウ・東雲菴の画者名なし↓「国天写」
- 三 オ・金銀齋「(嘯山)」↓「嘯山」註氏
- 同 ・鶴園「(轟)丸」の刻り不正確↓正しく「丸」
- 三 ウ・永日菴「(元)斎」↓「(元)斎」
- 同 ・一酌斎「(桂)裏」の刻り不正確↓正しく「裏」
- 四 ウ・湖月堂「(身)ハ」の一部欠刻↓正しく「ハ」
- 同 ・同「(と)す(かくに)」↓「(と)に(かくに)」
- 八 オ・永言齋「雪(や花)」↓「月(や花)」
- 十 ウ・大口「素(琴)」の刻り不正確↓正しく「素」
- 十二 ウ・「鏝(屋)」↓「鏝(屋)」

石川了

- 十四 ウ・「素(桃)」の刻り不正確↓正しく「素」
- 十五 オ・「(一陽)斎」↓「(一陽)斎」
- 十五 ウ・可幸「(さ)え(つり)」↓「(さ)へ(つり)」
- 十六 オ・「素(白)」の刻り不正確↓正しく「素」
- 同 ・「素(外)」の刻り不正確↓正しく「素」
- 十八 オ・「俊(丸)」の刻り不正確↓正しく「俊」
- 十九 オ・久楽「玉涌父」↓「故玉涌父」
- 十九 ウ・松胤「(わた)か(せに)」↓「(わた)る(せに)」
- 二十一 オ・「初鱈 真柴亭八重垣 犬山住 朝市にねも高くとつゑほし魚頭にのつてくる相場商ひ」↓「雪 六条園七葉棍丸 やれふむなふむなとしかる庭の面の雪にふむたるからうたの顔」
- 二十二 ウ・山守「(梅か)く」↓「(梅か)ゝ」
- 二十四 オ・好輔の詞書「同」↓「蚩」
- 二十九 ウ・葉丸の住所「大(山)」↓「犬(山)」
- 三十一 オ・「恋 万十菴茶陶 しのひやる文に人目の関よりも心とほらぬ君そつれなき」↓「恋 三津女 未公母 胸の火のもゆるおもひハ有なからなみたの袖のかわくまもなし」
- 同 ・奥恒「(そらたき)に」↓「(そらたき)や」
- 三十四 オ・圃晝「く(そくれ)へ」↓「こ(そくれ)へ」

三十五ウ・房丸「鳥指納涼」↓「納涼」
 四十ウ・袖風「富士」↓「納涼」
 四十三オ・真澄「(ち)ら(ま)ぎ」↓「(ち)ひ(ま)ぎ」
 四十三ウ・春風の詞書「同」↓「題しらす」
 同　・真影の詞書「同」↓「汐干」
 四十四オ・高居の詞書「同」↓「鵜川」
 四十四ウ・持丸の詞書「同」↓「汐干」
 四十六オ・「涼しさに」の歌「のこして」↓「ねさせて」
 四十七オ・「粒」甲(丹)「の刻り不正確↓正しく」甲「
 四十九オ・蘇丸「青柳(の)髪」↓「夕月(の)かけ」
 四十九ウ・「菊」の歌「(枕)菊(の)」↓「(樺)菊(の)」
 五十四オ・田鶴丸「撰(者)」の刻り不正確↓正しく「撰」

前号訂正 (形式は本文異同に同じで、「誤↓正」)

- 一　ウ・菜種「(水)そ」と↓「(水)そ」
- 三　ウ・五条坊「(四)丈」↓「(四)丈」*
- 四　ウ・湖月堂「(身)ハ」↓「(身)ハ」*
- 九　ウ・月丸「いとまよ」↓「いとま(乞)」
- 十一　オ・「朝(乎)」↓「朝(平)」
- 十四　ウ・「(秀)孤」↓「(秀)孤」
- 十六　オ・素白「(つ)くりて」↓「(さ)くりて」
- 二十　オ・玉涌「(玉)涌(父)」↓「(玉)湧(父)」
- 同　　・畦丸「(衣)午」↓「(衣)手」

富士 植松有信
 是ハハとはかり花のよしのより富士の山にハことのはもなし
 不二の山まくらして寝ハすそに物うちかけておけ田子のうら波
 時雨 暮雨巷桜田臥央
 水底を出れハ岸にしくれしてかつきかへたる海士のひち笠
 題しらす 詠人不知 或云羅城
 わくらハにとふ人あらはすま袋米一はいをもてなしにせん
 夕立 青簾舎都真
 鬼の手も出しさうなる黒雲や東寺あたりの夕たちの空
 沙干 岸千斎荷菫
 こつそりと浪ハ何所へか引こして沖にもけふハ沙の出かハリ
 芳流齋妹脊名歌好 【像】有文画



(二十六オ)

驚多 秦士鉉
 うくひすのぬふてふ笠のいと長く先よりもくるあとよりもくる
 耳風かもとへまかりける道にて杖をわすれ置て 鈴木叔清
 つく杖をわするゝほととの心にてころはぬ先とおもひけるかな
 酒のむ友のもとへ 松田棟園
 から衣ひもゆふくれのしきせ酒おしかけてこよかへすゝも
 藤に鳳巾のかゝりたるに 田々舎倍伍
 咲藤ハ蛸の足にも似たるゆ糸縁にひかれていかもかゝれり
 立春 東向菴旭景長
 明てけさ舌つゝみうつとその酒



(二十六ウ)

富士 植松有信
 是ハハとはかり花のよしのより富士の山にハことのはもなし
 不二の山まくらして寝ハすそに物うちかけておけ田子のうら波
 時雨 暮雨巷桜田臥央
 水底を出れハ岸にしくれしてかつきかへたる海士のひち笠
 題しらす 詠人不知 或云羅城
 わくらハにとふ人あらはすま袋米一はいをもてなしにせん
 夕立 青簾舎都真
 鬼の手も出しさうなる黒雲や東寺あたりの夕たちの空
 沙干 岸千斎荷菫
 こつそりと浪ハ何所へか引こして沖にもけふハ沙の出かハリ
 芳流齋妹脊名歌好 【像】有文画

(二十六オ)

驚多 秦士鉉
 うくひすのぬふてふ笠のいと長く先よりもくるあとよりもくる
 耳風かもとへまかりける道にて杖をわすれ置て 鈴木叔清
 つく杖をわするゝほととの心にてころはぬ先とおもひけるかな
 酒のむ友のもとへ 松田棟園
 から衣ひもゆふくれのしきせ酒おしかけてこよかへすゝも
 藤に鳳巾のかゝりたるに 田々舎倍伍
 咲藤ハ蛸の足にも似たるゆ糸縁にひかれていかもかゝれり
 立春 東向菴旭景長
 明てけさ舌つゝみうつとその酒

(二十六ウ)

十字盧曾洛
 椒芽亭西郊田染
 古笠菴簀行
 芦原國輔
 春雁
 尋幽亭新玉載名
 園胡蝶
 時鳥
 是雪
 此道蘇丸



(二十七オ)

筆軸成
 丸久友披戸つ
 諸手耳持
 礼楽堂文敷
 偃蓋亭常盤種松
 野田蛙
 無尺楼米屋益盛



(二十七ウ)

▲ たつふとうけてほんとにほへり

雪中訪友

十字盧曾洛

はつ雪にこへねたかとして戸たゞけハいつかるすなる庵にそ有ける

霞

椒芽亭西郊田染

明てけさはつ日のかけを見あげ鐵横にすちひくはつ霞かな

箒の画に

古笠菴簀行

はらふへき所ハなしといふちりをはらはんための箒也けり

時鳥

芦原國輔

星崎のやみをめあてに鳴声もちとりにかけてゆくほととぎす

春雁

尋幽亭新玉載名

花の雲くもみの雁ハいかに見ん六位すくせの浅黄桜を

夏富士

園胡蝶

時しらぬとハいはれまし雪消して

此道蘇丸 【像】耳風

▲ ふりあげし腕のやうなる男松にきりこふしの枝ふりもあり

(二十七オ)

▲ 山のすかたも夏やせの富士

露

筆軸成

萩のはねかへりすれハ吹風に露もころけるむさしの原

五月雨

丸久友披戸つ

ふりくらす空ハ日和もしけ米のぬかほしひとつ出ぬ五月雨

埋火

諸手耳持

さくら炭たく埋火の灰けふり雪と見えつゝくもと見えつゝ

卯花

礼楽堂文敷

卯花の雪ハほとけもつくらねと後光とみゆる垣の蜘蛛

題しらす

偃蓋亭常盤種松

うへみれハおよぬこととあきらめて笠をなきせそ手習の筆

夏艸

野田蛙

▲ 九十九夜かよひし道もふさかりぬ

無尺楼米屋益盛 大山棟屋町住 俗称三井屋佐兵衛 【像】墨儼

(二十七ウ)



(二十八才)



(二十八ウ)

▲小町はつれの夏の深艸

古戰場早蕨

忠度か右のかひなとミゆるかなちくさかりけるあとの早蕨

雛

扇得利安

上ハ下をあれれ踏台とてこころハ錦の内裡雛さま

蛸

九々菴紀草

飛螢女ならねと氏なうてひかりを出す玉のこしから

花

千賀浦女 玉浦女 巫紀成妻

のとかにて花のおもても笑尉ミれハ春日のさくら也けり

夕顔

桃の屋土師丸

わひたれと賤か住居の明くれは朝茶の煮花ゆふ顔の花

俳優瀬川路考へおくる

秋錦亭本荒小萩 鶴亭巢籠

三五屋玉兔影住 犬山煉屋町住 俗称和泉屋利平 【像】墨僊

大方は月ともめてしこれそ此つもりし雪にはの卯花

二二十八才

▲くらの付次第に高くのほり鯉たきつ瀬川や芸のミなかミ

初鯉

四辻真隅

賞翫ハ梅さくらより松の魚常世かのちも鉢につくりて

七福神の画を見て

林旭堂

福神の中でも高き福録寿あたまてかちとしたせくらへ

戯作の中に尺八へゆひを

石橋菴増井

うはきから此尺八のあなにさへはまりこんてハゆひも切たし

あつた宮簀姫の神を

冬瓜元成

はつ恋に互の顔をミやす姫かミさんとなる末のやくそく

大簗軒緑千尋 【像】有文画

東山桜にむれて大仏のはなの中から出る日からかさ

二二十八ウ

苗代 松千枝女 寸妻
 出来秋を的になしてや苗代にかゝしも弓をはるのあら小田
 同 伏見桃丸
 はえ出ハはつかに見えてあら小田へ水を引こむなハしるねすミ
 加茂 十字楼綾丸
 たつぬれハミおやハたれとしらはの矢わけいかならん神のふること
 月 鋤鋤耕
 常はりの鏡のこくくてる月に見るめの外ハ罪もつくらす
 花 左家諸躬
 花にうつる人の心もあすか山きのふハ上野けふハ浅艸
 祝 塩丸
 楠かち糸をふるひしはかりこと子等もよくしる世ハ太平記



(二十九オ)

紀長丸
 七所もらふはくろの山のはにけさやかすミの袖をとむらん
 暮春 芦原鶴成 大屋鋪
 をしめとも虎の尾桜咲とちてちりかゝりたる春の尻さや
 汐干 芦原鈴女 同妻
 干かたまてうちよせてけり底深ミ五丈あたりの夕かほの貝
 初鯉 鳩懐亭網鉤成 犬山
 はつかつをいつれあたひハ高雄山もミちかさねに身をつくる也
 七夕 蜚雪亭恒躬 同
 天の川星のおもひのたけ柄杓ひとよをこめて水ももらさす
 雪 栲縄茂曾呂
 あし跡もつけすに雪のしら波ハ世界のやミをうはひ取たり
 一見亭婦覽葉丸 大山棟屋町住
 俗称山縣屋仙藏 【像】墨儼
 八重霞おのかすかたはかくれ野に声あらハして雉子鳴なり



(二十九ウ)

苗代 松千枝女 寸妻
 出来秋を的になしてや苗代にかゝしも弓をはるのあら小田
 同 伏見桃丸
 はえ出ハはつかに見えてあら小田へ水を引こむなハしるねすミ
 加茂 十字楼綾丸
 たつぬれハミおやハたれとしらはの矢わけいかならん神のふること
 月 鋤鋤耕
 常はりの鏡のこくくてる月に見るめの外ハ罪もつくらす
 花 左家諸躬
 花にうつる人の心もあすか山きのふハ上野けふハ浅艸
 祝 塩丸
 楠かち糸をふるひしはかりこと子等もよくしる世ハ太平記

(二十九オ)

紀長丸
 七所もらふはくろの山のはにけさやかすミの袖をとむらん
 暮春 芦原鶴成 大屋鋪
 をしめとも虎の尾桜咲とちてちりかゝりたる春の尻さや
 汐干 芦原鈴女 同妻
 干かたまてうちよせてけり底深ミ五丈あたりの夕かほの貝
 初鯉 鳩懐亭網鉤成 犬山
 はつかつをいつれあたひハ高雄山もミちかさねに身をつくる也
 七夕 蜚雪亭恒躬 同
 天の川星のおもひのたけ柄杓ひとよをこめて水ももらさす
 雪 栲縄茂曾呂
 あし跡もつけすに雪のしら波ハ世界のやミをうはひ取たり
 一見亭婦覽葉丸 大山棟屋町住
 俗称山縣屋仙藏 【像】墨儼
 八重霞おのかすかたはかくれ野に声あらハして雉子鳴なり

(二十九ウ)

巴 嶺 犬山住
 花よりかは波のつゝみに横笛のねを吹あけの浜のまつ風
 飛鳥遠州 玉清父
 おひたゝし何千疋か飛ほたるしりハ小粒のこかねいろにて
 初鱈 権本住 初楓呼龍
 からし酔ハ鼻の道筋とほし馬かつをゝ酒のくちとりにして
 筍 千歳亭松俊古 大山初名 志賀浦風
 たけの子の根ハそのまゝの秋迦頭後光ににたる輪切にやせん
 寄閑恋 麦生亭
 するやいかにあたかもかたき閑路たにつひにハ落るならひありとハ
 夏月 蟠頭炭石 師崎住
 かゝやきし星や扇の銀砂子風もつ夏の月そすゝしき
 五角齋呂洲 墨儼
 春の来し東街道にねをはりて驚わたる鶉のほそ路



(三十才)

寄風恋 平蝶成
 恋わふる我ためいきの風とならハきミか上気の耳やさまさん
 時鳥 応明亭
 その声もはつか斗のほとゝきす月ハ次第にかけたかとなく
 筍 万照斎其卜
 生たちの十寸ハ過さるたけの子も千里の駒のむちと成らん
 納涼 菅原道行
 すゝしさにはまへをさしてひろハ、や此夕くれに落し川風
 春雨 世間亭思案坊 熱田
 いかのほりけふハやすめて春雨にいとひくものハ軒の玉水
 月 九竹園昆明
 秋最中こよひハ芋の月見とてあらひあけたるやうな月かけ



(三十ウ)

浜 巴 嶺 犬山住

蚶 飛鳥遠州 玉清父

初鱈 権本住 初楓呼龍

筍 千歳亭松俊古 大山初名 志賀浦風

寄閑恋 麦生亭

夏月 蟠頭炭石 師崎住

五角齋呂洲 墨儼

春の来し東街道にねをはりて驚わたる鶉のほそ路

寄風恋 平蝶成

時鳥 応明亭

その声もはつか斗のほとゝきす月ハ次第にかけたかとなく

筍 万照斎其卜

生たちの十寸ハ過さるたけの子も千里の駒のむちと成らん

納涼 菅原道行

すゝしさにはまへをさしてひろハ、や此夕くれに落し川風

春雨 世間亭思案坊 熱田

いかのほりけふハやすめて春雨にいとひくものハ軒の玉水

月 九竹園昆明

秋最中こよひハ芋の月見とてあらひあけたるやうな月かけ

(三十ウ)

(三十才)

七夕 浜まよ子 兼成妻
 船出してこよひ八星のつまむかへいはうてあまの川へほつこめ
 雪 琴津女
 菜花 通
 菜の花や山吹の瀬の川むかひけんくわとならんいろのあらそひ
 恋 万十菴茶陶
 しのひやる文に人目の関よりも心とほらぬ君そつれなき
 初鰹 早記
 はつかつをさしみに志賀のうら崎や春のころより是ひとつまつ
 七夕 桔艸菴
 けふはかり天の川原の石に判たしかにちきるほし合の空
 蕭夜野興恒 【像】調画
 うつみ火のあたりは春のそらたきにはなさきかをる梅のねり香
 (三十一オ)



(三十一オ)

社寮蓮花明 春吉
 ちかやうの神も両部か御やしろにはとけの弟子のもくれんけさく
 つもるほとまたゆきたけもたらぬやら雲の袖からをしむはつ雪
 紅葉 伊勢道遠記
 ひおとしとミゆる紅葉をよるひたる高雄ハ秋の山の大将
 樵夫 真間皮成
 仙人にあらぬきこりも山藤のつるにのりてハわたる谷川
 笋 宝珠庵佳良
 趙雲かやり先とミん大地よりかく突ぬいて出るたけの子
 婦雁 八束穂稲人 香掛
 柚山にそののこきりのはおとしひきりもなくかへる雁かね
 竹意菴弓箭為丸 別号錦園俳名黄山初号
 錦多楼為就吉原氏
 【像】月斎画
 脊のひして見おくるけさにくらふれはまつ夜に長き首ハものか
 (三十一ウ)



(三十一ウ)

七夕 浜まよ子 兼成妻
 船出してこよひ八星のつまむかへいはうてあまの川へほつこめ
 雪 琴津女
 菜花 通
 菜の花や山吹の瀬の川むかひけんくわとならんいろのあらそひ
 恋 万十菴茶陶
 しのひやる文に人目の関よりも心とほらぬ君そつれなき
 初鰹 早記
 はつかつをさしみに志賀のうら崎や春のころより是ひとつまつ
 七夕 桔艸菴
 けふはかり天の川原の石に判たしかにちきるほし合の空
 蕭夜野興恒 【像】調画
 うつみ火のあたりは春のそらたきにはなさきかをる梅のねり香
 社頭木蓮花 明春吉
 ちはやふる神も両部か御やしろにはとけの弟子のもくれんけさく
 つもるほとまたゆきたけもたらぬやら雲の袖からをしむはつ雪
 紅葉 伊勢道遠記
 ひおとしとミゆる紅葉をよるひたる高雄ハ秋の山の大将
 樵夫 真間皮成
 仙人にあらぬきこりも山藤のつるにのりてハわたる谷川
 笋 宝珠庵佳良
 趙雲かやり先とミん大地よりかく突ぬいて出るたけの子
 婦雁 八束穂稲人 香掛
 柚山にそののこきりのはおとしひきりもなくかへる雁かね
 竹意菴弓箭為丸 別号錦園俳名黄山初号
 錦多楼為就吉原氏
 【像】月斎画
 脊のひして見おくるけさにくらふれはまつ夜に長き首ハものか
 (三十一ウ)

(三十一ウ)

(三十一オ)



(三十二オ)



(三十二ウ)

初春 正中菴、丸田
松に竹たいく／＼にえひ炭にしたしめてことふくはつ春の門
隣梅 松蔭月住 同
こちらへも匂ひおこせよ梅の花あるし有とて垣をへたつな
夏月 米野泰成
夏ながら木末の霜とみしか夜のあつさはきゆる月のすゝしさ
月 如意菴玉野稀成
脇さしのさやけきかけハときたてし砥なミの山を出る月かけ
梅 夜目通目
めておもふ心のたけのうくひすもにくやとなりの梅にうつり気
春月 立花鈴成
苗代の案山子の弓やはるの月空にかすみの引つめてゐる

恋 佐野和多理 住松名新田 【墨儼】
君こんと身あかりすれはさかり蜘蛛うらよし原の春のゆふくれ

門をもる犬より君かあしあとにまつけしかくる閨のともし火 長主
菊 いましめの杖に成てふ竹をもてゆかみを直すきくの花守 連人
初雪 達摩にハまたつくられす庭の面くつのあとさへをしむはつ雪 影光
梅 夜学するたよりと成かしら梅のつもりし雪の枝に火ともす 夢哉坊
鏡餅 さしくしのはにふの家も鏡もちかみにかさりていはふめてたさ 行安
梅 たつねよる簾の中なる梅の花にはひハ香の物にそ有ける 寄 睡
六有園鼓成吉 初号脚躰堂矢部氏 【像】墨儼
やくそくの御宿はこゝとなよ竹も雪に寝てまつ雀いろ時

(三十二ウ)

(三十二オ)

月 可月
 結ひあくる水あれハこそ猿猴かおよハぬ月も手のうちにあれ
 時鳥 清
 端午 古今亭六司 員連父
 さげ髪をいはふ節句とて上わらハかたくちまきも根そろへをせり
 初鰹 古今亭員連 掛名百濟
 はつかつをいて料理せん大江戸のまな板はしを越しはしりに
 萩 欲蓮法師
 むつましき臥猪の床の三つふとんにしきの夜着にまかふ秋萩
 埋火 浅瀬文方
 あらき風あてしと思ふ埋火や花にゆかりの山さくら炭



(三十三才)

響 松月堂
 うくひすもあくれハ八年をこし障子はるそとつくるのりの一こゑ
 踊 飲亭程好
 やすむまも小町をとりの名にめてゝあしもそとハにかゝる床台
 逢恋 作文居賤歌人 根高
 うれしさをつゝむにもハなかりけり妹か二布も引はつしては
 松 和歌茂少々読安
 ときハなる色ハ君子のミちのくや枝に威有てたけくまの松
 同 雲裳亭千武 観海楼
 大江山こもれるミねを見あくれハやせたる姫子こえし鬼まつ
 霞 五朝斎無音勝成
 春霞たて琴のをとみるまでにひくたなはたのうたの中山
 日本房花垂 【像】 蛸池
 鳴蟬の声ハしけりてなつ木立若葉の露そ風にしくるゝ



(三十三ウ)

月 可月
 結ひあくる水あれハこそ猿猴かおよハぬ月も手のうちにあれ
 時鳥 清
 端午 古今亭六司 員連父
 さげ髪をいはふ節句とて上わらハかたくちまきも根そろへをせり
 初鰹 古今亭員連 掛名百濟
 はつかつをいて料理せん大江戸のまな板はしを越しはしりに
 萩 欲蓮法師
 むつましき臥猪の床の三つふとんにしきの夜着にまかふ秋萩
 埋火 浅瀬文方
 あらき風あてしと思ふ埋火や花にゆかりの山さくら炭

鶯 松月堂
 うくひすもあくれハ八年をこし障子はるそとつくるのりの一こゑ
 踊 飲亭程好
 やすむまも小町をとりの名にめてゝあしもそとハにかゝる床台
 逢恋 作文居賤歌人 根高
 うれしさをつゝむにもハなかりけり妹か二布も引はつしては
 松 和歌茂少々読安
 ときハなる色ハ君子のミちのくや枝に威有てたけくまの松
 同 雲裳亭千武 観海楼
 大江山こもれるミねを見あくれハやせたる姫子こえし鬼まつ
 霞 五朝斎無音勝成
 春霞たて琴のをとみるまでにひくたなはたのうたの中山
 日本房花垂 【像】 蛸池
 鳴蟬の声ハしけりてなつ木立若葉の露そ風にしくるゝ

(三十三ウ)

(三十三才)

恋 官能長 鶴齋長
 落さうに見すれと落ぬそれ鞠やとかくに君ハ上手あしらひ
 紅葉 橘戸亭加茂苗繼 棟岐
 紅葉する入日の岡や朝日山いつれもあけとくれなゐのいろ
 時鳥 花林堂望岳 初さを丸 又紫旦
 ほととぎす聞はつしたり豆腐やに耳ハいらぬといひし折から
 雪 万葉仮名文
 見し花に荷ひ合せハ雪にまた棒をれのするミねのまつか枝
 梅 不朽堂彫安
 さしよりにて折紙にすな咲花のしらさやものゝ梅のたち枝を
 蝶々庵丈長
 春風ハいとまをやりて三月におきかへミたき花のゆふ露



(三十四才)

花 角内子 田鶴丸妻
 ちる花を目にもらさしとさくら川花に網はれさゝかにの糸
 七夕 梅 女 同女
 あまの川わたるあふせのおり姫にみさをすくなるつまむかへふね
 立春 立春 浜塩風 同息
 都へハ松まへこんぶ数の子を先荷となして春ハ来にけり
 滝 近水斎舞雩
 文覚かふることも世になかるめりあらしきやうさんなちの滝津瀬
 鳴子 永日菴真菅 其風
 山田守ねふれハ風のおとつれてひかぬ鳴子に目やさますらん
 忍恋 糸風亭松丸 大夫館 住犬山
 恋しなハしのふなミたをぬくひ置てなき跡までも人にしらせし



(三十四ウ)

恋 鶴齋長 初住江岸也
 落さうに見すれと落ぬそれ鞠やとかくに君ハ上手あしらひ
 紅葉 橘戸亭加茂苗繼 棟岐
 紅葉する入日の岡や朝日山いつれもあけとくれなゐのいろ
 時鳥 花林堂望岳 初さを丸 又紫旦
 ほととぎす聞はつしたり豆腐やに耳ハいらぬといひし折から
 雪 万葉仮名文
 見し花に荷ひ合せハ雪にまた棒をれのするミねのまつか枝
 梅 不朽堂彫安
 さしよりにて折紙にすな咲花のしらさやものゝ梅のたち枝を
 蝶々庵丈長
 春風ハいとまをやりて三月におきかへミたき花のゆふ露

(三十四才)

花 角内子 田鶴丸妻
 ちる花を目にもらさしとさくら川花に網はれさゝかにの糸
 七夕 梅 女 同女
 あまの川わたるあふせのおり姫にみさをすくなるつまむかへふね
 立春 立春 浜塩風 同息
 都へハ松まへこんぶ数の子を先荷となして春ハ来にけり
 滝 近水斎舞雩
 文覚かふることも世になかるめりあらしきやうさんなちの滝津瀬
 鳴子 永日菴真菅 其風
 山田守ねふれハ風のおとつれてひかぬ鳴子に目やさますらん
 忍恋 糸風亭松丸 大夫館 住犬山
 恋しなハしのふなミたをぬくひ置てなき跡までも人にしらせし

(三十四ウ)

雲雀 四緒音好
 久かたの雲井的にあつさ弓ひきハかへさすひはりあけゆく
 梅 高階元察
 鞠ならて風にはつミし梅かゝをそらさて早く袖にとめたり
 龜 三光亭宝小路花榮
 智者仁者ひとつにめてん蓬萊の山と水とをこのむみの龜
 早苗 紀哥和盛
 秋の田を心にかけてうたかるたとるや早苗もついはなの先
 納涼 幸喜多丸
 すゝしさハうちハたいこのかハ風につれてとんく鳴瀧の水
 露 玄長老
 穂すゝきハまねけとかふりふり立て風ににけたるいものはの露



(三十五才)

急狀齋赤雅美 墨僊
 木下かけねらひよりたる涼しさや夕月のさすゝめいる時
 元日 遊女なかの
 おともなくからりとあけて嬉しきハ戸さゝぬ御代の元日の空
 浦花 円々齋望輔
 いせさくらちるハあこきかうらみ也花にあらしハ禁断の場所
 初鯉 大家都成
 いてくまん酒のさかなにはつかつを下戸もみかたにつけるからし酔
 祈恋 東壁堂古文
 心経ていのりし物をいかなればあのくたらさる君かひとこと
 子規 万葉堂旧巴 耳風父
 あハれ世のよき時つくる声もかななさけをかけよやよほとゝきす



(三十五ウ)

雲雀 四緒音好
 久かたの雲井的にあつさ弓ひきハかへさすひはりあけゆく
 梅 高階元察
 鞠ならて風にはつミし梅かゝをそらさて早く袖にとめたり
 龜 三光亭宝小路花榮
 智者仁者ひとつにめてん蓬萊の山と水とをこのむみの龜
 早苗 紀哥和盛
 秋の田を心にかけてうたかるたとるや早苗もついはなの先
 納涼 幸喜多丸
 すゝしさハうちハたいこのかハ風につれてとんく鳴瀧の水
 露 玄長老
 穂すゝきハまねけとかふりふり立て風ににけたるいものはの露

(三十五才)

鳥指納涼 袋房丸
 木下かけねらひよりたる涼しさや夕月のさすゝめいる時
 元日 遊女なかの
 おともなくからりとあけて嬉しきハ戸さゝぬ御代の元日の空
 浦花 円々齋望輔
 いせさくらちるハあこきかうらみ也花にあらしハ禁断の場所
 初鯉 大家都成
 いてくまん酒のさかなにはつかつを下戸もみかたにつけるからし酔
 祈恋 東壁堂古文
 心経ていのりし物をいかなればあのくたらさる君かひとこと
 子規 万葉堂旧巴 耳風父
 あハれ世のよき時つくる声もかななさけをかけよやよほとゝきす

(三十五ウ)

急狀齋赤雅美 【像】墨僊

花 桃源亭園丸
胎内より大にひらく
旭名軒鶴丸
高砂のをへにきけハふもと寺しもよりひらくあかつきのかね
述懐 金福林倉好
蛙 真那部道有
待恋 倭琴人
時雨 道楽齋志丸
平安亭九重七辻 初名竹光新見



(三十六オ)

子規 文亭都々久 熱田
築山にうゑしきつきのほととぎす口まつかにさいてなくなり
祝 桑の屋月亭
日の下のひとりの人をうやまひてをさまる御代のめてたきハ是
温冷舎漁徑
子日 五葉舎不沙汰乗打 大森
花 大比叡のあらしに花を吹つけて春も雪もつから崎の松
同 蓬萊蓬士 熱田
松 芦家礪人 大森
千糸亭房成 耳風



(三十六ウ)

花

花の世にうまれかハリしこちせり胎内くゝる大ミねさくら

霜

高砂のをへにきけハふもと寺しもよりひらくあかつきのかね

述懐

神農のなめのこしたる質艸ハ貧のやまひのくすりなりけり

蛙

よみいつるうたやはらみて大きなはらをかゝえてかハつなくらん

待恋

いたつらにあたゝめてまつ閨のうちにくやさましにはいる小夜風

時雨

抱あるく子よりも乳母かからかさをもひと日もりするむらしくれ空

平安亭九重七辻 初名竹光新見 【像】 調画

可愛子をひとりねさせし賤の女は月をせおひて衣うつなり

子規

築山にうゑしきつきのほととぎす口まつかにさいてなくなり

祝

日の下のひとりの人をうやまひてをさまる御代のめてたきハ是

子日

子日する小松ハ千代のはしかゝりこしをかゝみの間をやひくらん

花

大比叡のあらしに花を吹つけて春も雪もつから崎の松

同

咲みちて晴天七日花すまひよしのはつせもまけすおとらす

松

ちとせをも十倍ましに齡へよけにも久しき亀山の松

千糸亭房成 【像】 耳風

番匠の飛驒の山路に雪そとはつもりちかひの家さくらはな

(三十六ウ)

(三十六オ)



(三十七オ)



(三十七ウ)

恋 花本住 本地
 わかれ路へたかひに胸のうし車あとへひかるゝ恋のやまミチ
 山家 月窓丸 赤津
 たのしみハ山の奥にも有あけの月をくミたる庵の茶の水
 雪 梅園守 瀬戸
 花と見る雪のけしきもよしの山ふりつもりたる一目千本
 月 笹の屋鞭竹武久 息為丸
 あし引の山のこなたにすむかひはあり明の月のいるまでもミン
 夏艸 林泉亭沼田綾女 同妻
 茂りて八月さへはやくかけ落てむさしのせまきなつ艸の山
 恋 方流園回
 きふまでしほりし袖ハ是ほとゝうれしなミタをなかさあふよハ

(三十七オ)

五月雨 万代石季 内津
 川／＼のつかへくすりの七日ほとひとまハリミちすなる五月雨
 立秋 赤松下澄 同
 きふまですわるあつさのくす袴けふうら見せてたちし秋風
 螢 万世楼年長 同
 くもる夜の空に螢の飛かふをミつよつふたつほしとおもへり
 時雨 清水庵繁定 同
 むらしくれ月を雲間に染かねて紺屋のもかり風さわく也
 立秋 松梅亭増安 同
 秋きぬと目に物ミせぬ早わざにおとろかれぬる風のかげ声
 月 八尋殿女 耳風妻
 下風に萩吹わけてむらさきの雲間を出るとみやきのゝ月
 宝珠園一角有丸 任知多時木 【像】調画
 ほとゝきす糸へるやうにくるすちへ結びあへせし菴せうれしき

(三十七ウ)



待花 圭齋
 本のはまはまのついでに
 竹園山氏俗稱八右門 大江知香
 現金舎後豆永金就
 方十園金成息今住岐阜
 竹園山氏俗稱八右門 大江知香
 竹人とりつて
 佛を
 けく
 ちむ
 世界
 かり
 言は暁
 墨儼

(三十八才)



月 風雅堂玉鉾美知丸
 山駕のまろくわたれる月こよひのほるも雲のあしやかるらん
 夕立 芳艸園阿畑有面
 夕たちハ遠くてちかくなるかミヤをとこ女の中もへたてす
 月 於久手稲丸
 雪かとして袖うちはらふかけ法師ハさのゝわたりの月のゆふくれ
 擣衣 松声軒幸琴通
 おそハれし夢のたゝ中うつつちにやふるきぬたのおとそうれしき
 梅 琴音高 本野
 おと雪とよくにハもせの花の兄見まかふはかりしろたへにさく
 浦雁 不夜楼宝玉雄
 かへるさは霞にきえつあらハれつ見ぬめのうらに見るめかりかね
 竹志菴七友 初名燈未文
 【像】月齋画
 蚊やりたく賤か軒端のやれ扇つまをこかせしゆふかほの宿

(三十八ウ)

待花 圭齋
 木のもとにまちくたひれて宿とれハあるしの花は火をもともさす
 鶺鴒 笛音好
 茂りたる松をかゝりに切くへて月のさハリをいとふうつかひ
 夕立 菅原氏好
 夕たちの早おちかたに成行て木々にひかりをのこすしら露
 子日 春久
 子日するのへの石地のかたけれハひかてや千代の松をちきらん
 納涼 根春楼梅丸
 夏川の月の氷ハうすからてあつさを水にとかす涼しさ
 紅葉 不老園菊人
 都鳥たてとも水のすみた川あし跡うつすきしの紅葉々
 現金舎後豆永金就 方十園金成息今住岐阜
 竹園山氏俗稱八右門 大江知香
 【像】墨儼

(三十八才)

月 風雅堂玉鉾美知丸
 山駕のまろくわたれる月こよひのほるも雲のあしやかるらん
 夕立 芳艸園阿畑有面
 夕たちハ遠くてちかくなるかミヤをとこ女の中もへたてす
 月 於久手稲丸
 雪かとして袖うちはらふかけ法師ハさのゝわたりの月のゆふくれ
 擣衣 松声軒幸琴通
 おそハれし夢のたゝ中うつつちにやふるきぬたのおとそうれしき
 梅 琴音高 本野
 おと雪とよくにハもせの花の兄見まかふはかりしろたへにさく
 浦雁 不夜楼宝玉雄
 かへるさは霞にきえつあらハれつ見ぬめのうらに見るめかりかね
 竹志菴七友 初名燈未文
 【像】月齋画
 蚊やりたく賤か軒端のやれ扇つまをこかせしゆふかほの宿

(三十八ウ)

花 本より有文妻
 枝くさる代衣いさで
 池辺虫 椿井望輔
 しのの池のへにすむきりくす髭をあらひてなくもしほらし
 納涼 花鈴園多樹
 かふりふるやねの風見ハタくれの此すしさの氣にいらぬのか
 三月三日 松葉五友
 手習も節句のひとつ日ハやすませて硯のうみもひかたとそなる
 恋 鈴木鱒広
 秋の田のかりそめならす思ひあふ袖ハなミタの露にぬれつゝ
 偽恋 狭田睦広
 下駄のはの二まいの舌そうらめしき今さら我をふみつけにして
 龜楽菴柳百采 熱田住加藤氏
 【像】墨儼



(三十九才)

時鳥 川原巴
 ほときすす一声聞てかけ出せハとほりすぎたる宿のかん酒
 故郷柳 五道堂呂文
 九重を忘れぬ志賀のふるさとハ今も柳のさけ髪にして
 残菊 平生為故 今岐阜住
 笛のねのひうらハ霜におとろへてみるもしまひと成しかれ菊
 紅葉 橙舎蓬萊堅澄
 林間の酒にたく火の夜るハ消てひるハもえたつミねの紅葉々
 雪 緑松久
 三越路の名もなき皴も雪にねてさかさま竹と見ゆるあけほの
 春雪 磯の屋網彦
 降出るも消るもはやき春の雪いかてほとけにつみつくるへき
 会稽山人土師雪 山中氏
 【像】蛸池写
 麻つくりみをそくはかり風さへて雪にさらせる冬の夜の月



(三十九ウ)

花 木もと女 有文妻
 枝くさる代衣いさで
 池辺虫 椿井望輔
 しのの池のへにすむきりくす髭をあらひてなくもしほらし
 納涼 花鈴園多樹
 かふりふるやねの風見ハタくれの此すしさの氣にいらぬのか
 三月三日 松葉五友
 手習も節句のひとつ日ハやすませて硯のうみもひかたとそなる
 恋 鈴木鱒広
 秋の田のかりそめならす思ひあふ袖ハなミタの露にぬれつゝ
 偽恋 狭田睦広
 下駄のはの二まいの舌そうらめしき今さら我をふみつけにして
 龜楽菴柳百采 熱田住加藤氏
 【像】墨儼

(三十九才)

時鳥 川原巴
 ほときすす一声聞てかけ出せハとほりすぎたる宿のかん酒
 故郷柳 五道堂呂文
 九重を忘れぬ志賀のふるさとハ今も柳のさけ髪にして
 残菊 平生為故 今岐阜住
 笛のねのひうらハ霜におとろへてみるもしまひと成しかれ菊
 紅葉 橙舎蓬萊堅澄
 林間の酒にたく火の夜るハ消てひるハもえたつミねの紅葉々
 雪 緑松久
 三越路の名もなき皴も雪にねてさかさま竹と見ゆるあけほの
 春雪 磯の屋網彦
 降出るも消るもはやき春の雪いかてほとけにつみつくるへき
 会稽山人土師雪 山中氏
 【像】蛸池写
 麻つくりみをそくはかり風さへて雪にさらせる冬の夜の月

(三十九ウ)



山家 新樹園積寸法
世に語りぬるも又
うゝをささふはむらみ
汐干 西樓住方
と日暮くふくはのしり
のさかぞ目くひらり
友村 柳園圃木陰
池水のそくもくはき
きくくくくくくく
恋 梧鳳舎閨鈴
恋しさへ何につみみてしのはんななミに袖のくちはてし身ハ
待わひてあくひにあこのかけかねをはつすにはめし君ハつれなし
夏艸 竹林亭桑弓彦
銭五亭宮重太根
山の井の浅き水さへ影ミえてなつくさふかくしける此ころ
長生園松風寿 初名花香麗瀟 長坂氏
【像】不断庵玉湧製

(四十才)



恋 逸興菴唐歌友成
あふにうへはうきめもよしやよしの川いもせの中に名をなかつとも
富士 瓢実園袖風
月かけのさしみのさらに涼しさハ風にもそよ柳葉の夢
花 五応斎経岫
風の中の袋のくちもこのことくくりにつけたし花の短冊
夏花 林五亭酒好也
床なつにねむる胡蝶の夢をしもむすひかへつや花の夕つゆ
恋 竹風庵歌政 月斎
ふたり寝に汗をかゝして恋風をなほしてくれよ仲たちの医者
竹 五万齋徳若
くれ竹の根ハむちとなり上ハまたをさなあそひの馬とこそなれ
子日松彦 俗称羊兵衛 墨儂
【像】墨儂

(四十ウ)

山家 新樹園積寸法
世をさけて欲にふけらぬ身にも又うつら衣をきたる山すみ

汐干 西樓住方
三日のせくことふく汐の引わたしのしに成へき貝をひるひつ

夏艸 柳園圃木陰 西名穂逸
池水のそくも見えすしけりてハきしより上も深き夏艸

恋 梧鳳舎閨鈴
恋しさへ何につみみてしのはんななミに袖のくちはてし身ハ

待恋 竹林亭桑弓彦
待わひてあくひにあこのかけかねをはつすにはめし君ハつれなし

夏艸 銭五亭宮重太根
山の井の浅き水さへ影ミえてなつくさふかくしける此ころ

長生園松風寿 初名花香麗瀟 長坂氏
【像】不断庵玉湧製

秋の夜の月見の友にそひながら祝ても曲ある竹の横笛

(四十才)

恋 逸興菴唐歌友成
あふにうへはうきめもよしやよしの川いもせの中に名をなかつとも

富士 瓢実園袖風
月かけのさしみのさらに涼しさハ風にもそよ柳葉の夢

花 五応斎経岫
風の中の袋のくちもこのことくくりにつけたし花の短冊

夏花 林五亭酒好也
床なつにねむる胡蝶の夢をしもむすひかへつや花の夕つゆ

恋 竹風庵歌政 月斎
ふたり寝に汗をかゝして恋風をなほしてくれよ仲たちの医者

竹 五万齋徳若
くれ竹の根ハむちとなり上ハまたをさなあそひの馬とこそなれ

子日松彦 俗称羊兵衛 【像】墨儂

只一夜そひ寝の髪のもつれよりつひに物おもふくせそつきける

(四十ウ)



(四十一オ)



(四十一ウ)

初恋 山道都良喜 本齋
 筆の先かミしめてかく玉章に恋のうまみやおほへそむらん 田原長丸
 帰雁 去年きたる返事ハ越のかたさまへまぬらせ候のかりの玉章 雪兔園篤丸
 夏艸 生しける中をわけゆく菅笠は艸はにくるふ胡蝶かとみむ 坂上三千丸
 同 雁 娘のかみ螢ハ籠になつ艸のほうし花やらかの子ゆりやら 平道成
 待恋 天のはら雲の波間を三日月のふねにもさをやさしわたる雁 広路方雪風
 うき人を鶴の首ほとさしのへて一夜を千代とまつそわりなき

(四十一オ)

恋 相生亭元住
 同 鼎足光
 若菜 玉章菴有武
 曲水 三五楼古雛 津崎
 冬のうた 扇かな女 大森
 祝 紅葉に似しわらハハか手のひらもくれなぬになるけさの霜やけ 霞十重女 同
 武士も囲碁に遊ひてせめ合ハうつてかハリの御代そめてたき
 道芝刈安 【像】蜻池写
 つもりたる恋の重荷のありたけはこゝろつよさの君におハせん

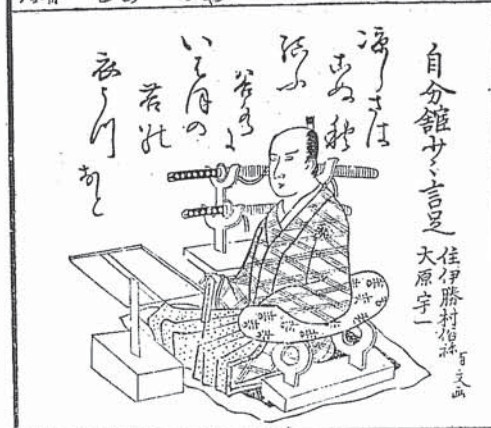
(四十一ウ)

野分 五息齋牡丹坊内津
のわきすの風に千艸の花せん香すゝきの中に紅葉々もちる
懐旧 水定軒蔵主
懐著 水定軒蔵主
忍逢恋 入船伴雄 大森
送別 明導法師
旅 五橋菴浮船
納涼 竹時雨菴繁重
新玉年雄 蛸池



(四十二オ)

双駄亭成程
自分館少々言足 佳伊藤村俗稱 大原宇一
夏艸 十五屋小夜澄
子日 一龍軒潜丸
夏月 上毛星丸
若艸 蛙元成
陸菴六友



(四十二ウ)

野分 五息齋牡丹坊 内津
のわきすの風に千艸の花せん香すゝきの中に紅葉々もちる
懐旧 水定軒蔵主
忍逢恋 入船伴雄 大森
送別 明導法師
旅 五橋菴浮船
納涼 竹時雨菴繁重
新玉年雄 蛸池
【像】 蛸池

(四十二オ)

恋 双駄亭成程
逢ふしもあしわけをふねさハリ有てなミたそ袖のみなど入する
夏艸 十五屋小夜澄
妹か手につミのこせしも立のひていまハ我脊にあまるなつくさ
子日 一龍軒潜丸
子日するけふハ尾上の霞までよこにもひくやたかさこの松
夏月 上毛星丸
なつのよの月の出しほのさす時や蚊屋になみうつ風のすゝしさ
若艸 蛙元成
まかなくは何を種とてわかくさの畑のうねく生しけるらむ
恋 陸菴六友
封したる文をハ君にわたし舟こかるゝとのミ書しうハかき
自分館少々言足 佳伊藤村俗稱 大原宇一
【像】 有文画

(四十二ウ)

恋 多田常人 津島
 おもひうち有たけ書てやるふみの墨いろ外にあらはずな君
 花 蔵六菴真彦 布袋野
 見わたせは桜の雪とすみた川からす飛ちる花の横雲
 鹿 間々皮成
 こふ妻の星毛たにみぬさを鹿のなくねもくもる夜半のむら雨
 時雨 南巢数成
 ふれはやむ旅のしくれの雨やとりはらふ茶代もさためなき空
 鷹狩 琴羽綾成
 養由か雲の雁をいまとれとこふしかためてはなす鷹人
 紅葉 藪柄房其杖
 初霜に色つきぬらし紅葉山風の声さへかはるこのころ
 歌泉堂真澄 初号松舎千代住 【像】玉僊写



(四十三才)

素 松風音好 熱田
 朝またきねくらの鳥の霜はらふはおもも寒し庭のさゝ竹
 同 黄鳥菴春風
 ともし火に鶯のなく冬の夜の霜ハ花ともまかふ梅か枝
 時鳥 下戸望月
 かけひなたわけてなくらん時鳥入日のたかね三日月の空
 鶺鴒 御影堂石成 犬山
 舟に棹さすか早瀬もうかひ男ののミこみのよきよわたりの業
 同 北録堂雪住 同
 なれてよく鶺鴒をつかふ身もやはり又おのれか口につかハるゝわさ
 同 五十栖真影 布袋野
 世中の味こそかハれ年〳〵に海さへ汐のひものとそなる
 照亭松岡月住 【像】玉僊写



(四十三ウ)

恋 多田常人 津島
 おもひうち有たけ書てやるふみの墨いろ外にあらはずな君
 花 蔵六菴真彦 布袋野
 見わたせは桜の雪とすみた川からす飛ちる花の横雲
 鹿 間々皮成
 こふ妻の星毛たにみぬさを鹿のなくねもくもる夜半のむら雨
 時雨 南巢数成
 ふれはやむ旅のしくれの雨やとりはらふ茶代もさためなき空
 鷹狩 琴羽綾成
 養由か雲の雁をいまとれとこふしかためてはなす鷹人
 紅葉 藪柄房其杖
 初霜に色つきぬらし紅葉山風の声さへかはるこのころ
 歌泉堂真澄 初号松舎千代住 【像】玉僊写

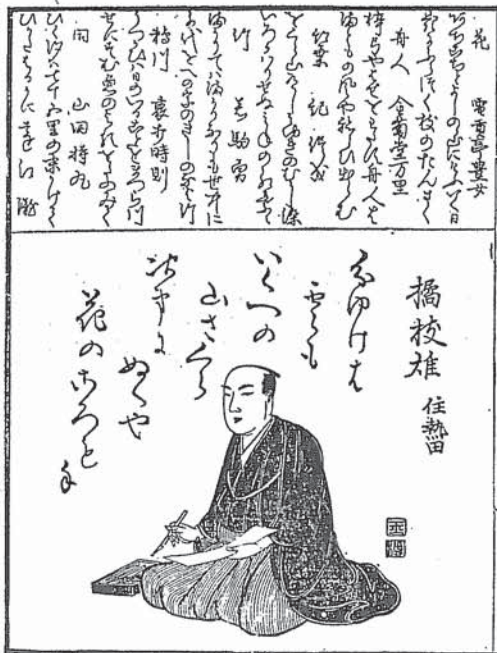
(四十三才)

霜 松風音好 熱田
 朝またきねくらの鳥の霜はらふはおもも寒し庭のさゝ竹
 同 黄鳥菴春風
 ともし火に鶯のなく冬の夜の霜ハ花ともまかふ梅か枝
 時鳥 下戸望月
 かけひなたわけてなくらん時鳥入日のたかね三日月の空
 鶺鴒 御影堂石成 犬山
 舟に棹さすか早瀬もうかひ男ののミこみのよきよわたりの業
 同 北録堂雪住 同
 なれてよく鶺鴒をつかふ身もやはり又おのれか口につかハるゝわさ
 同 五十栖真影 布袋野
 世中の味こそかハれ年〳〵に海さへ汐のひものとそなる
 照亭松岡月住 【像】玉僊写

(四十三ウ)



(四十四才)



(四十四才)

同 一層楼高居 同
 なから川うふねに竿をさしも艸せなかにあつくもゆるかゝり火
 鏡餅 石灯楼春日歌多好
 御具足にすうるもちひのかさりにへ是もよるひをきたる伊勢海老
 花 大洲館気来
 花に気を奪はれてよりたましひのいれかへにのむ瓢単の酒
 同 時鐘遠
 しつかりと見てかへりしにふりむけへふたゝひ雪とみよしのゝ花
 汐干 不老園元住 犬山
 はき高くすそをまくりてけふ汐のひなつるめきしうらの貝とり
 卯花 達富堂達富
 あかるくてやミもへんくわの玉川やけに月しろにかハる卯花
 旭櫻亭花御空 桜井氏 【像】調画

(四十四才)

花 雪買亭豊女
 あちこちとよしのゝ山にけふいく日花にふらつく枝のたんざく
 舟人 金菊堂万里
 梓弓やはせをわたす舟人はまとももの風やねらひ出らむ
 紅葉 紀盛成
 をくら山有しミゆきのむかし染いろかハリせぬミねの紅葉々
 竹 若駒勇
 まかりてハマかりなりにも世中に千代をへの字のきしのなよ竹
 鶺鴒 裏打時則
 うつかひハ日のあることをまつら川せにそむ魚のよるをたのみて
 同 山田持丸
 ひく汐ハ七十五里の末かけてひかたはるかに遠江灘
 橘枝雄 住熟田 【像】調画(玉溪)

(四十四才)



(四十五才)



(四十五ウ)

江戸にありて 月の屋林木々丸
都鳥なきてあつまにすミた川わかおもふ人もあらはとへかし

梅 整亭真砂女

梅さけハ池の水もとけそめて波の花まてにほふ春風

寄行灯恋 大小二寿喜 熱田

あふと見し夢さへやふれ行灯の消るおもひの恋病そうき

田家 藤のや長房

霞 谷水のもらひ乳をして小山田をもりなからにもくらすしら小家

梅風亭一芳

天の原うちかすみて八月のめすみかさの山もおほる也けり

花 勸善堂竹村永世 影工

桜さく吉野ハ花にうつもれて山のすかたハ雲にそ有ける

橋窓亭引窓長綱 【像】玉僊写

ほととぎす啼つるかたないつくとときハめのつかぬ今の一声

(四十五才)

是よりのちハ、前に出たる人の中より、なほあまれる歌とも

をいさゝかこゝに出す

擣衣 深淵

さよころもうつの山辺のつたかつらはひこるおともさひしかりけり

恋 中墻

是ほともしらすなといふ指先を切ての後はあらハれにけり

納涼 中墻

打水の手桶に秋をくミいれてあつさの底をたく夕風

祝 増安

羽衣のたとへの外にめてたきハなてられてます君か代の民

雑 増安

官川に一文出せる代垢離はおのかげかれをよそへあひせん

久世内子 香良妻 【像】玉僊写

初暦あくれは山の中段にかすみたつなるミつの朝あけ

(四十五ウ)



(四十六才)

梅 九
 はつ春の礼者もてなす馳走にハ何より庭の鉢の木の梅
 納涼
 裸にてひとりすまひの門すゝみおもハす団なくる夕風
 同
 此ころのあつさに無沙汰せし風もすたれをあけてはいる涼しさ
 同
 涼しさに起出にけらし月かけのまろき団を蚊屋にのこして
 鶯
 うくひすの経の論義に聞とれて八講布をたちゝかへたり
 納涼
 すゝみとる人ミな去て橋の上のひろきを見れば夜そ更にける

紅葉
 大景菴山邊初風
 住江戸市公
 俗稱永石初太郎
 【像】墨僊

(四十六才)



(四十六ウ)

紅葉
 紅葉する木々ハならへし哥かるたむへ山風もあかしと見ゆらん
 露
 板ひさしあられもる夜ハ埋火のすミあらしたる不破の関守
 恋
 妹かおくる文庫ミれハからくと鳴て瘡のさかるうれしさ
 熊谷直実のかたに
 笠の名に呼てそ今も仰くなるかしらおろすハをしきものゝふ
 梅
 梅からハ霞にこめてあり明のはるやむかしの袖のうつり香
 早蕨
 つれ／＼のうハさにきけハ鬼わらひこのころいつる春雨のそら
 三味園三宝小路仲乘 【像】国天写

(四十六ウ)

粒 甲 丹 驚風痘瘡中風傷寒 疫痢吐血產前後異病
 氣附毒消危急ニ効アリ
 野分してうちふすへの百艸もおきてそ露のめくミをハしる
 安産明知散 第一安産婦人諸症并金瘡下血吐血
 追風にあしわけをふねさはりをもはらひてやすくうみわたるなり
 金 龍 丸 小児五疳驚風胎毒
 いとよわき園の小菊もすくよかにむしをはらひて千代ハへぬへし
 猶くハしくハ能書にあり。各希代の神方也。此外妙劑數品あり。
 なみこえし葉のきゝめたしかさハ石に判をもすゑのまつ山
 墨儼堂菱光製
 京町通石町北側 福徳屋市左衛門



初日かけあくれはひかりさし扇かゝやく天地金城の春
 ひろくらく扇
 墨儼堂黒染衣紋菱光 初号正月巻
 玉儼圖

(四十七オ)

立春 長 彦
 いつはらぬ初鶏のねに天の戸をあけてそとほす年の関もり
 不破の関もるとしもなき臘月てりさへぬるき板屋かうはい
 鶯
 春きぬとしつた太子かうくひすの経ひろめんと山を出てなく
 花
 木のもとにつくしの筆ハ有なから花にはてんもうてぬみよし野
 同
 夕くれハかには桜もおほろにて花の梢にはさむ三日月
 春満
 蛤もはるハかすミのはしら立楼台をくむうらの朝風
 墨香良 菱光息 【像】玉儼
 氷さへとけいの玉の春そとて車きしらす若水のおと



墨香良 菱光息
 氷さへとけいの玉の春そとて車きしらす若水のおと
 玉儼

(四十七ウ)

墨儼堂黒染衣紋菱光 初号正月巻 【像】玉儼図
 初日かけあくれはひかりさし扇かゝやく天地金城の春

(四十七オ)

立春
 いつはらぬ初鶏のねに天の戸をあけてそとほす年の関もり
 長彦
 不破の関もるとしもなき臘月てりさへぬるき板屋かうはい
 鶯
 春きぬとしつた太子かうくひすの経ひろめんと山を出てなく
 花
 木のもとにつくしの筆ハ有なから花にはてんもうてぬみよし野
 同
 夕くれハかには桜もおほろにて花の梢にはさむ三日月
 春満
 蛤もはるハかすミのはしら立楼台をくむうらの朝風
 墨香良 菱光息 【像】玉儼
 氷さへとけいの玉の春そとて車きしらす若水のおと

(四十七ウ)



(四十八才)



(四十八ウ)

卯月八日に時鳥を聞て
灌仏のゆひさす月にほととぎす天にも地にもみゆる鳥かけ
納涼
ねころんて見る蠟燭のちらりと火も横になる風のすしき
鶉
秋艸の錦のしとね露の玉敷ておこりにふける野鶉
鶴
鶴のよハひちとせをへても中くにかしらに雪ハおかぬ丹頂
蛙
川上の雪解の水のやハらくは蛙のうたのとくにや有らん
滝辺花
見あくればちる玉水にきをうつや滝より上の花のしらなみ

玉儂写

(四十八才)

舟人
舟人にとへ棹もてさゝ浪や志賀の都はあれにしのかた

宝船友乘 菱光息 【像】玉儂写

秋ふかミ賤か鳴子も引やめておとせしものハ千町田の水

秋田水

秋の野の月のすみれをみる我そかけなつかしミひとよ寝られす

月

七夕の星にまかへるしら露もわたるやあまのかハラなてし子

瞿麦

けふいく日ふりて滝なすもり桶にむしろも耳を洗ふさみたれ

同

つれくゝに妹もあくひの口紅はさつきの雨の夕はれのいろ

五月雨

風をいたみ岩うつ波ハ汐干してふむにくたくるあしもとの貝

汐干

(四十八ウ)

残菊
 咲のこる花のおほろのゆふはえハ頃も小春の月のしらきく
 懐旧
 古茶碗見るにつけてもたらちねをとよやといひしむかしのはし
 柚
 おのつから柚か宮木の切くちもかたそきにこそそきのこしけれ
 富士
 三国の山の王ともみる富士のたかねハ雲のうへにこそあれ
 春月
 青柳のみとりの髪へおのつからくしかたにさす青柳の髪
 納涼
 秋かとして風のてにはにうたかひのかの声もなき月のすゝしさ
 切俵
 坂上 蒼悟友
 初名 仲程



(四十九才)

豊年 舍出来
 江戸市谷住
 大 大
 柳 月 丸
 七夕
 根をまけてたけをそろふる 枕菊の花ハことしのとちめ也けり
 菊
 招きよす時雨にくもらせて紅葉のてりのつく秋の日



(四十九ウ)

残菊
 咲のこる花のおほろのゆふはえハ頃も小春の月のしらきく
 懐旧
 古茶碗見るにつけてもたらちねをとよやといひしむかしのはし
 柚
 おのつから柚か宮木の切くちもかたそきにこそそきのこしけれ
 富士
 三国の山の王ともみる富士のたかねハ雲のうへにこそあれ
 春月
 青柳のみとりの髪へおのつからくしかたにさす青柳の髪
 納涼
 秋かとして風のてにはにうたかひのかの声もなき月のすゝしさ
 坂上 蒼悟友 初名 仲程
 【像】 墨僊

夏 艸
 野飼せし馬にくハるゝなつ艸もはらにへりめのミえすしけれり
 虫
 艸臥しおのれよりまつとらへてハかこほしけなる旅のまつ虫
 雑
 まらうとのかへり心に気のついてよこれし庭もたてぬ帚目
 柳
 枝長くさるとよハるゝめを出して月とるさまの川そひ柳
 月 丸
 七夕
 朝風につらくふかれて短冊のうらみかちなる星のわかれ路
 菊
 根をまけてたけをそろふる 枕菊の花ハことしのとちめ也けり

(四十九才)

豊年 舍出来 秋 江戸市谷住
 【像】 調画
 大空はたえず時雨にくもらせて紅葉のてりのつく秋の日

(四十九ウ)



(五十才)



(五十才)

祈恋
おもひあまる我恋艸のその種を神にまかせていのらさらめや
大原女
のこりなく売し黒木のくらま路を星いたゝきてかへる大原女
花
よしの山霞ハ幕よ雲ハはた朝日さくらや花の大將
雲雀
いとよわき霞の棚のはつれよりものおつるとミゆる野雲雀
納涼
この春の花見に行し返礼か山からさとへおくる涼風
鹿
鹿のねに袖ぬらしつゝ歌かけハなれか毛筆もかわくまそなき

恋
よへあひてねしとや人のおもふらん待あかしてハねむきめもとを
立春
春きぬと飛たつ人のおもひこそかすみとなりて空にたつらめ
柳
咲花にうしといひしを引かへて風にのりよき馬の尾柳
春月
からうすの音高山もおほろにて霞にこめのつきあかりけり
苗代
ひさかたのひの口まつる春の日に賤心してあける苗代
三月辰
はらわたをたつおもひ也呼子鳥けふ春の日もさるとおもへは

放生菴巨実 別号伊豫堂 【像】有文画

たくはへし腹の書物に大根の銀杏をいゝ年こしの汁

(五十才)

立春
春きぬと飛たつ人のおもひこそかすみとなりて空にたつらめ
柳
咲花にうしといひしを引かへて風にのりよき馬の尾柳
春月
からうすの音高山もおほろにて霞にこめのつきあかりけり
苗代
ひさかたのひの口まつる春の日に賤心してあける苗代
三月辰
はらわたをたつおもひ也呼子鳥けふ春の日もさるとおもへは

放生菴巨実 別号伊豫堂 【像】有文画

たくはへし腹の書物に大根の銀杏をいゝ年こしの汁

(五十才)

六月あ 月夜にふりし雨の音は 花をふりし雨の音は 花をふりし雨の音は	花を 花を 花を	花を 花を 花を
七月あ 月夜にふりし雨の音は 花をふりし雨の音は 花をふりし雨の音は	花を 花を 花を	花を 花を 花を
八月あ 月夜にふりし雨の音は 花をふりし雨の音は 花をふりし雨の音は	花を 花を 花を	花を 花を 花を
九月あ 月夜にふりし雨の音は 花をふりし雨の音は 花をふりし雨の音は	花を 花を 花を	花を 花を 花を
十月あ 月夜にふりし雨の音は 花をふりし雨の音は 花をふりし雨の音は	花を 花を 花を	花を 花を 花を

(五十一才)

五月雨
 ゆきゝたえてひさしに滝のおとす也なこそふるやのさミたれの雨
 蘭
 藤はかまきて見し跡の夕くれはきり吹かけてたゞむ秋風
 雁
 みつら行その又あとに三つら行むつらのわたりわたる雁かね
 芒
 陵王の袖をふるのゝ花すゝきいり日をまねく風の手つかひ
 おなしく
 何にかくおもひミたれて花すゝきたもとの露に月やとすらん
 秋田
 稲も今風にひけをやそるならんかしらさけつゝみのる出来秋

紅葉
 月の時梢を切し鹿相さは今こそくゆれ紅葉々の火に
 同
 夕日さす山の紅葉とたつ虹はしくれのつくる色にや有らん
 菊
 猿猴の月およはて雲のうへにほしを手にとるしらきくの花
 冬月
 冬の夜の月の鏡のくもらぬははけしく風のふけハ也けり
 寒声
 冬の夜の月にめせとや吹風にかれたる芦のかさ／＼といふ
 恋
 うき恋のきさしをふくむ鳥の子のわりてしいはゝひよくともなれ
 恋
 身の油しほらるゝよりくるしきハひとたらしなる君か挨拶
 初逢恋
 逢初し我身ふるひをあた人よいなめるさまとおもひはしすな
 待恋
 かけやと袖ハなミたの露をおもミ月をまつこと君をこそまで
 海
 西海の波の底には太刀魚に貝の兜よ海老のよろひよ
 題しらす
 をり／＼ハかたもすかして休むらん棒もへの字にたわむ重荷は
 祝
 君かよはひいくつと人のとひし時鶴とこたへて千代やへならむ
 (五十一才)



(五十一ウ)

柳
松たてぬ賤か住家も軒ちかくしめの縄なふ風の青柳
夕立
夏の日もふりミふらすミ定なやせミのしくれにゆふたちの雨
萩
さく花をめてつゝゆけハおもハすも我はきぬらす野路の玉川
霜
箒目の波間にはしる木の葉船けさたちそむる霜の帆柱
恋
あハぬ夜のつもるまくらのちり迄か人の目にいるうき名くるしや
五月雨
湿はらひ酒のきゝめハのむ人の顔はかりてるさみたれの宿
七辻

校者 月花菴 【像】墨僊

深山木の見しらぬ中に近付は扱御久しや千年の松

(五十一ウ)



(五十二オ)

虫干
虫ほしのきぬのもやうの須磨の浦あかしも風の吹とほすらむ
蕪
あさなくわらへる花の朝きけんむしつくことをしらぬ朝かほ
卯花
けいせいはいかに三十日の月も又まことてハなき卯花のいる
虎丸
暮秋
行秋をからみてとめん糸すゝきのこる日数のまたきれぬ間に
待窓
さよふけてさしこむ月ハさかれともまつ間に癩ののほる胸先
綾丸
子のひするめてたくの若松や千代のためしを引うすのうた
綾丸

画人 松壽園有文 別号白観堂又菴僊 初名安丸 【像】有谷筆

糸瓜のつるをきればや高垣のむかふへ月の落かゝるらん

(五十二オ)



(五十二ウ)



(五十三オ)

蝸牛

かたつふり京高屏をのほるものならへし竹のふしみ海道

春曙

心ある身にはめてたさしらるへし鶴たつ沢のはるのあけほの

鹿

趙高八馬とよふともつま恋にうしとてなくか秋の小男鹿

雪

こかさしと雪に手をとる孝行の子ハその親のあとやふむらん

同

不手きハな兎つくれば西行の猫と見まかふ雪の白かね

鷹狩

大君のいきほひしるしたちまちに飛鳥おとすみかり野の鷹

校者 同導堂福洲 初名齊之屋九家 【像】有文画

あつさ弓はるのひと日ハ朝の事わするゝはかりひくゆふかすみ

(五十二ウ)

恋

指切のちに逢夜をかさふれハまちかふやうなこゝちこそすれ

述懐

老をかむとわらハるゝ身の口をしやそのはきしりの齒さへなくして

柳

川柳なひくすかたの影ミえて水の中にも風や吹らむ

蛭

はちす葉の露によりくる夏虫のひかりハまたも玉とあさむく

恋

朝顔の露のなさけもなかたちのつるの手のひになるそわひしき

山家

山鳥の山にすむ身ハ人に腰をるともいはすかゝみたにせず

画人 月光亭墨僊 初名歌政牧氏 別号北亭醉墨山人 【像】自画

齒のぬけし親の口には柚子味噌もこかね色なる孝行の釜

(五十三オ)



(五十三ウ)



(五十四オ)

海士
よる浪のしわのしするかうかミ出て息つくあまか水ふくもミゆ
蚊遣火
恋
山さとの蚊やりの煙のこりしやあさまでもたつ短夜のそら
色かくす雪にそめ木を薪かとりいれらるゝ身こそつらけれ
春風に八重垣こえてふところへうたよむ種のはいる梅か香
みそぎする川辺ハすゝしすゝ細工なかしれたる人のかたしろ
恋
恋わたる身ハ宇治川にあらそへるなミたに先をこされけるかな
御祓
玉湧

画人 不断蒼大江湧
初号佩詩堂耳風
別号繪池園夫
【像】後佩詩堂耳風写
出るにハまたせ入にはをしませて月にうらみの山くとある

(五十三ウ)

花
田鶴丸
五月雨
川添の柳の露もしら浪となりて梢にのほるさみたれ
雲なきにいかなるくまそ熊野浦鯨にくもる浪の月かけ
すみかまのあたりの竹ハ雪にねてたちしけふりや風の下をれ
はてもなくいつまで影をやとすやと月もあきれん袖の泪に
恋
田子の浦ゆミわたす富士ハふたつなしとおもへは水の底にもあるかな
撰者
橘菴芦辺田鶴丸
【像】墨儼
世中をやすき心のりかへてうしとおもハし賽翁か馬

(五十四オ)



(五十四ウ)

霞 若かへる春の霞にかくろひて宝永山はなきもとの富士
 夕立 あはてゝは錦木までをとりいるゝ鹿相女のやとのゆふたち
 露 風ににけくしてにけ水とつひにはなるかむさしのゝ露
 千鳥 浦ちとり一羽かたてハ二羽三羽はねからはねへおくる小夜風
 恋 目に涙口には袖のおほはれてあへうらみの出所もなし
 雑 うかれ女になれ舞姫にたへむれんよし地獄でもまたほとけても
 輯者 後佩詩堂右馬耳風 初名時曳速射 書林万巻堂 【像】 墨儼
 そ りんぎせぬうたのためしにたつ多山何のほむらにもゆるもみち

(五十四ウ)

入集者索引

25ウまでは「翻刻・上」所収
26オからは「翻刻・下」所収

相生亭元住
赤雅美↓急状齋赤雅美
赤松下澄
重紀成↓茄子重紀成
秋日登元祢
明 春吉
阿交↓六斎阿交
柏屋月町
朝起↓分家朝起
朝起常成
浅瀬文方
浅野眺格
麻 直成
麻 中雄↓双蝶園麻中雄
旭 景長↓東向庵旭景長
旭名軒鶴丸
芦之屋丸家↓同導堂福洲
芦辺庵沙満
芦辺田鶴丸↓橋庵芦辺田鶴丸
芦辺真鶴〔田鶴丸 息〕
芦間壘丸
足光↓鼎 足光
芦家磯人
芦原国輔
芦原鈴女〔鶴成 妻〕
芦原鶴成
同 妻↓芦原鈴女
飛鳥遠洲〔玉清 父〕
畦広↓狭田畦広
畦丸↓野田畦丸
足立氏

篤丸↓雪兎園篤丸
阿畑有面↓芳圃園阿畑有面
海士綱曳
天野信景
網 鈎成↓鳩懷亭網鈎成
網 引方
網曳↓海士綱曳
網彦↓磯の屋網彦
綾女↓林泉亭沼田綾女
綾成↓琴羽綾成
綾丸↓周竹舎綾丸
綾丸↓五涼軒綾丸
綾丸↓十字楼綾丸
新玉載名↓尋幽亭新玉載名
新玉年雄
在雅亭起歳坊
有丈↓風折左京有丈
有武↓玉章庵有武
有面↓芳圃園阿畑有面
有年↓松風亭有年
有信↓植松有信
有文↓松寿園有文
有丸↓宝珠園一角有丸
有琴↓松夕庵有琴
魚狩↓虎 魚狩
庵住↓岬 庵住
庵丸↓正中庵 庵丸
鶴陀↓茄子重紀成
以桂
池 良成↓大藪庵虎丸
勇↓若駒 勇
以座屋鶴老
石籠六女
石川 亨↓本街道石川亨
石灯楼春日歌多好

石成↓御影堂石成
石橋庵増井
和泉屋利平↓三五屋玉兎影住
伊勢道遠記
五十栖真影
磯の屋網彦
磯人↓芦家磯人
一円舎一方
市橋問泰↓櫛木園市橋問泰
一丸↓東雲庵一丸
一万斎三三長鬘斗
一陽齋奥馬鬼影
一陽齋柳生
一龍軒潛丸
逸興庵唐歌友成
一穴庵寸齋
同 妻↓松 千枝女
一見亭婦覚葉丸
一口↓鬼畜齋一口
一酌齋桂裏
一升事樽
一寸法師↓西来居未仏
一層楼高居
一通↓知竹斎一通
井筒屋竹甫
一鼎
一片舎栗町〔紐長 父〕
一方↓一円舎一方
一芳↓梅風亭一芳
稻穂鈴成
稻丸↓於久手稻丸
稻人↓八束穂稻人
軒 高成↓五眠亭軒高成
今谷豆成↓金輪斎今谷豆成
妹脊名歌好↓芳流斎妹脊名歌好

伊予堂↓放生庵巨実
入人↓見小庵福入人
入船伴雄
鱧〔初印「鏝」〕屋清狂
敲 松胤
筠葉齋青鸞
員連↓古今亭員連
印籠紐長↓栗廼屋印籠紐長
植松有信
浮船↓五橋庵浮船
烏橋
烏月
氏好↓菅原氏好
烏夕
右石↓紫筭亭右石
烏雪
烏川↓慮竹斎烏川
宇田種 風彦
↓呂喬斎宇田種風彦
歌人↓作文居賤歌人
歌政↓月光亭墨徳
歌政〔二世〕↓竹風庵歌政
産 雛人↓紀 好輔
馬 内子
右馬耳風〔二世〕
↓後佩詩堂右馬耳風
梅女〔田鶴丸 女〕
梅 園守
梅丸↓根春楼梅丸
裏打時則
浦風↓千歳亭松俊古
浦女↓千賀浦女
裏成↓菜花園利根裏成
浦浪女
雲臥↓般若台雲臥

雲裳亭千武	33ウ	織田右大臣	1才	鹿子結女	20才
永言齋季来	8才	音高↓琴 音高		香窓弘器↓雅流園香窓弘器	42ウ
永日庵其律	3ウ	音成↓賓尊堂響音成		上毛星丸	
永日庵真菅	34ウ	音丸↓勇々館大江深淵		龜雄↓寿亭綠龜雄	
枝雄↓橋 枝雄		音好↓四緒音好		龜丸↓朋来庵酒龜丸	
越人↓負山子越人		音好↓笛 音好		加茂苗継↓橋戸亭加茂苗継	
衛守↓傘 衛守		音好↓松風音好		可用	
得利安↓扇 得利安		鬼影↓一陽齋奧馬鬼影		香良↓墨 香良	15才
円々齋望輔	35ウ	御武具屋惣左衛門		唐歌友成↓逸興庵唐歌友成	26才
爰居亭石久	12才	↓鑑堂平性津鶴		傘 衛守	
遠洲↓飛鳥遠洲		於丸↓伽羅鳩入		刈安↓道芝刈安	17才
追風↓真帆追風		折風↓旭松堂扇折風		雅流園香窓弘器	3ウ・46才
老多久楽〔玉浦 父〕	19才	温冷舎漁徑		佳良↓宝珠庵佳良	39才
扇 得利安	28才	会稽山人土師雪	36ウ	花鈴園多樹	39才
扇 折風↓旭松堂扇折風		開栗庵知一坊	21才	花鈴園望岳	34才
扇 かな女	41ウ	花栄↓三光亭玉小路花栄		蛙↓野田 蛙	
応明亭	30ウ	楓 呼継↓椎 本住		蛙 元成	42ウ
大江玉湧↓不断庵大江玉湧		臥央↓暮雨巷桜田臥央		皮成↓真間皮成	
大江知香↓現金舎後豆永金就		(土師)搔安↓菊泉亭里童	10ウ	皮成↓間々皮成	
大江深淵↓勇々館大江深淵		蝸牛		河辺友久	2ウ
多樹↓花鈴園多樹		(万言齋)可興↓竹溪堂芝嶺風		哥和盛↓紀 哥和盛	39ウ
大口素琴	10ウ	可唸↓湖月堂可唸		川原 巴	
大洲館氣来	44才	鶴園轟丸	3才	親海楼↓雲裳亭千武	45才
大橋喬二	13ウ	菊長↓鶴 菊長	28才	勸善堂竹村永世	26才
大原宇一↓自分館少々言足	35ウ	鶴亭巢籠		岸 齋荷菖	
大家都成		角南説足↓二水楼二水		緩布↓無筆齋緩布	
大藪庵虎丸	23才・52才	(百濟)掛雄↓古今亭貞連		儀庵↓田中杜石	
岡田左竹	11ウ	影住↓三五屋玉兎影住	33才	箕隠↓湖月堂可唸	
岡田野水	7ウ	可月		木々丸↓月の屋林木々丸	
小川多之寿	19才	景長↓東向庵旭景長		掬水園榎木陰	40才
興恒↓蕭夜軒興恒		影光	32ウ	麴水園龍且	9才
沖名齋鳥億	9才	可紅	13ウ	菊泉亭里童	17才
起歳坊↓在雅亭起歳坊		可幸	15ウ	菊人↓不老園菊人	8ウ
於久手稻丸	38ウ	花香庵蓬洲↓長生園松風寿	9ウ	其考	
奧馬鬼影↓一陽齋奧馬鬼影		可索齋鳥連			

義行↓叢々亭義行 季谷 (住江)岸也↓鶴 荷長 旭松堂扇折風 寄睡 葵翠庵坂井中壙 沂水齋舞雩 喜多丸↓幸 喜多丸 鬼畜齋一口 其兆庵五臚 橘庵芦辺田鶴丸 同 息↓浜 塩風 同 息↓芦辺真鶴 同 妻↓角 内子 同 女↓梅女 橘五園源香美 橘窓亭引窓長綱 橘戸亭加茂苗繼 紀堂↓丸々庵紀堂 紀 哥和盛 紀 賤丸↓竹籬庵紀賤丸 木下長嘯子 紀 長丸 紀 儘成 紀 儘好 木 もと女〔有文 妻〕 紀 好輔 紀 六林↓味息齋紀六林 紀 若女〔本住 妻〕 其梅 其風↓永日庵真菅 其文 其下↓万照齋其下 季丸↓後一巴亭要季丸 伽羅鳩人	15才 23ウ 32ウ 18才・45ウ 34ウ 4才 4才 54才 14ウ 4才 54才 1才 45才 34才 35才 1ウ 29ウ 44ウ 25才 39才 24才 20才 8ウ 6才 24ウ	鳩懷亭網鉤成 急狀齋赤雅美 旧巴↓万卷堂旧巴 眺格↓浅野眺格 狂哥齋↓西來居未仏 擬華亭比良暮雪 喬二↓大橋喬二 眺之 眺台↓暮雨巷久村眺台 眺真館巴交 旭桜亭花御空 曲兒↓歌藏庵曲兒 玉照堂脚望↓勇々館大江深淵 玉駄↓楚山亭玉駄 旭堂↓林 旭堂 玉兎影住↓三五屋玉兎影住 玉流園黃金沢丸 漁徑↓温冷舎漁徑 清 許水↓僧許水 御風↓又玄齋御風 清水庵繁定 清女↓塩水清女 季米↓永言齋季米 氣米↓大洲館氣米 龜染庵柳百朵 其律↓永日庵其律 喜理人↓楊弓喜理人 淇流 旗綾館蒲洲 錦園↓竹意庵弓箭為丸 金菊堂万里 金銀齋嘯山 錦多樓為就↓竹意庵弓箭為丸 金福林倉好	29ウ 35ウ 35才 35才 16才 18才 44才 11ウ・46才 33才 37ウ 39才 39才 12才 17ウ 41ウ 3才 36才	九々庵紀堂 卿 庵住 卿花好成 久世内子〔香良 妻〕 九足齋於丸↓伽羅鳩人 九竹園昆明 菊長↓鶴 荷長 轡 音成↓寶導堂轡音成 国輔↓芦原国輔 櫟 尺長 (夜道)久良喜↓龍吟亭龍雄 久樂↓老多久樂 藏主↓水定軒藏主 倉好↓金福林倉好 藏人↓酒家藏人 栗方↓大小栗方 栗廼屋印龍紐長 同 父↓一片舎栗町 栗町↓一片舎栗町 吳羽安伎 黒染衣紋菱光 ↓墨櫻堂黒染衣紋菱光 桑の屋月亭 桑 弓彦↓竹林亭桑弓彦 久波倍↓鏡子亭久波倍 圭齋 経岫↓五心齋経岫 並雪亭恒躬 桂裏↓一酌齋桂裏 鷄老↓以座屋鷄老 下戸望月 月光庵 月光亭墨僊 月齋↓竹風庵歌政 桔岫庵	28才 24ウ 21ウ 45ウ 30ウ 23ウ 14才 25ウ 36ウ 38才 29ウ 43ウ 51ウ 53才 31才	月亭↓桑の屋月亭 蠅丸↓半掃庵蠅丸 玄御方 現金舎後豆永金就 〔兼(八)成 息〕 元察↓高階元察 見小庵福入人 玄水↓服部玄水 絃多樓↓清音館龍之調 玄長老 後一巴亭要季丸 黄山↓竹意庵弓箭為丸 黃鳥庵春風 編蝠庵↓味息齋紀六林 広路方雪風 五心齋経岫 木陰↓掬水園檜木陰 黃金沢丸↓玉流園黃金沢丸 湖眺↓清晴亭湖眺 五橋庵浮船 国天↓不断庵大江玉湧 湖月堂可喰 九重七辻↓平安亭九重七辻 古今亭貞連 同 父↓古今亭六司 古今亭六司〔貞連 父〕 小鹿無孔笛↓潜龍閣小鹿無孔笛 古二齋丁二 腰障子美濃紙 胡椒亭丸吞 五条坊 五息齋牡丹坊 五大圃朋信 巨燧山守 吳竹根春↓琅玕亭吳竹根春	7才 38才 22ウ 35才 24才 43ウ 41才 40ウ 42才 4ウ 33才 33才 33才 9才 23才 10才・48才 3ウ 42才 21ウ 22ウ
--	--	---	--	---	---	---	--

秋染↓川船子秋染	40 才	45 才	16 才	45 才
叔清↓鈴木叔清				
壽亭綠龜雄				
珠弄堂環丸々				
春興↓陶亭広人				
春光↓和楽園春光				
春秋園竹葉				
閨鈴↓梧鳳舎閨鈴				
春魯↓貞齋春魯				
正月庵↓墨僊堂黒染衣紋菱光				
松響堂澄成↓方金園玉清				
松月堂				
嘯山↓金銀齋嘯山				
松三堂月星				
松壽園有文				
同 妻↓木 もと女				
少々言足↓自分館少々言足				
少々読安↓和歌茂少々読安				
松声軒萃琴通				
松夕庵有琴				
峭池↓不断庵大江玉湧				
照亭松岡月住				
松梅亭増安				
松風亭有年				
条風亭松丸				
蕭夜軒興恒				
笑染庵倍二				
如蝶↓莊周庵如蝶				
白玉↓滝 白玉				
調↓清音館龍之調				
市樓↓一陽齋奥馬鬼影				
士朗↓枇杷園士朗				
白髭長児↓風月庵白髭長児				
(竹光)新見↓平安亭九重七辻				
新樹園積寸法				
尋幽亭新玉載名				
醉霞↓伝芳窩醉霞				
醉菊庵升人				
水荃園筆丸				
水定軒蔵主				
醉墨山人↓月光亭墨僊				
菅原氏好				
菅原道行				
鋤鋤 耕				
好成↓艸花好成				
好也↓林五亭酒好也				
直成↓麻 直成				
巢籠↓鶴亭巢籠				
鈴木叔清				
鈴木齋広				
(土師)雪↓会稽山人土師雪				
鈴女↓芦原鈴女				
鈴成↓稻穂鈴成				
鈴成↓立花鈴成				
砂原春風				
住方↓西樓住方				
墨湖↓丸屋墨湖				
(松響堂)澄成↓方金園玉清				
住江岸也↓鶴 莠長				
墨 香良(菱光 息)				
同 妻↓久世内子				
寸齋↓一穴庵寸齋				
寸法↓新樹園積寸法				
清音館龍之調				
清狂↓鱧(初印「鏑」)屋清狂				
省齋↓赤松亭可童				
清晴亭湖眺				
青篋舎都真				
正中庵、丸				
整亭真砂女				
清藤				
青鸞↓筠葉齋青鸞				
西樓住方				
環蓋亭常盤種松				
赤松亭可童				
世間亭思案坊				
雪花園三十日月丸				
石季↓万代石季				
石久↓爰居亭石久				
雪貫亭豊女				
雪兔園篤丸				
節分庵本多伯馬				
折柳亭葉研鏑丸				
瀬戸治部九郎↓珠弄堂環丸々				
善↓染齋善				
全伍				
錢五亭宮重大根				
千歳亭其儘忠興				
千歳亭松俊古				
千糸亭房成				
專壽				
千樹↓橋 千樹				
川船子秋染				
宣千				
洗草齋貫成				
川柳↓片帆舎川柳				
徑流園桃種人(亀丸 息)				
潜龍庵小鹿無孔笛				
僧許水				
蔵甲↓幽竹齋蔵甲				
宗二↓野村宗二				
莊周庵如蝶				
同 妻↓姫柳				
叢々亭義行(不誰 息)				
僧素外				
双駄亭成程				
双蝶園麻中雄				
同 父↓馮里樓坂下住人				
同 父↓馮里樓坂下住人				
僧忍溪				
(王照堂)艸望↓勇々館大江深淵				
僧万思				
蒼蠅亭多可留↓鶴園轟丸				
操染齋長耳				
蔵六庵真彦				
素外↓僧素外				
素琴↓大口素琴				
速齋中丸				
楚山亭玉馱				
龜東齋司丁				
素竹齋俊丸				
袖風↓瓢実園袖風				
素桃				
其杖↓鏡柄房其杖				
園 胡蝶				
其儘忠興↓千歳亭其儘忠興				
園丸↓桃源亭園丸				
園守↓梅 園守				
素白				
蘇丸↓此道蘇丸				
曾洛↓十字盧曾洛				
尊壽院↓權僧正妙橋				
大円園師↓無住大円園師				
大景庵山辺初風				
俗伍↓田々舎俗伍				
大篋軒緑千尋				
太根↓錢五亭宮重大根				
大小菓方				
大小二壽喜				
俗青↓五老峰俗青				

大扇↓満陽堂大扇 橙舎蓬萊堅澄 平 蝶成 平 道成 俗路↓笏香園俗路 栲縄茂曾呂 高居↓一層樓高居 高木 某 高階元察 高成↓五眠亭軒高成 耕↓鋤鐵 耕 宝小路花栄↓三光亭宝小路花栄 宝 玉雄↓不夜樓宝玉雄 宝船友乗〔菱光 息〕 同 妻↓針道学女 〔蒼蠅亭〕多可留↓鶴園藤丸 滝 白玉 滝丸↓陽樓滝丸 武久↓笹の屋鞭竹武久 竹時雨庵繁重 丈長↓蝶々庵丈長 竹光新見↓平安亭九重七辻 竹村永世↓勸善堂竹村永世 竹屋彦兵衛↓古刀庵忠長彦 竹山洒石 忠興↓千歳亭其儘忠興 多田常人 忠 長彦↓古刀庵忠長彦 橋 一枝 橋 千樹 橋 枝雄 立花鈴成 龍雄↓龍吟亭龍雄 田造↓春 田造 龍之調↓清音館龍之調	39ウ 30ウ 41才 29ウ 7才 35才 48ウ 24才 42才 11ウ 43才 19才 17ウ 44ウ 32才	達富堂達富 田鶴丸↓橋庵芦辺田鶴丸 蓼輔↓隣 蓼輔 田中杜石 谷 月橋↓弦掛一升 谷丸↓白鷗亭谷丸 胤臣↓津金胤臣 種人↓櫻流園桃種人 種松↓堰蓋亭常盤種松 多之寿↓小川多之寿 玉雄↓不夜樓宝玉雄 環 九々↓珠弄堂環九々 玉清↓方金園玉清 玉章庵有武 玉野稀成↓如意庵玉野稀成 玉鉾美知丸↓風雅堂玉鉾美知丸 玉守 〔文言舎〕田丸↓玉流園黄金沢丸 玉浦↓方十園篠莖玉浦 玉湧↓不断庵大江玉湧 〔鋪多樓〕為就↓竹意庵弓箭為丸 為丸↓竹意庵弓箭為丸 為故↓平生為故 太夫館↓糸風亭松丸 太郎庵↓簷下太郎庵 田原長丸 炭石↓蟠頭炭石 知秋↓萩野知秋 知一坊↓開栗庵知一坊 千枝女↓松 千枝女 千賀浦女〔玉浦 女〕 〔重紀成 妻〕 竹志庵七友 竹意庵弓箭為丸 同 息↓笹の屋鞭竹武久	44才 10才 41ウ 23才 41ウ 31ウ 38ウ 28才	同 妻↓林泉亭沼田綾女 竹逸園千広↓橋五園源香美 竹亭節丸 竹風庵歌政 竹甫↓井筒屋竹甫 竹夜坊 竹養↓堀 竹養 竹葉↓春秋園竹葉 竹籬庵紀賤丸 竹林亭桑弓彦 釋笑↓指峰堂釋笑 千武↓雲裳亭千武 知竹斎一通 竹溪堂芝嶺風 千鶴庵離人 〔竹逸園〕千広↓橋五園源香美 千尋↓大箕軒緑千尋 〔五月庵〕千万多↓東雲庵一九 中太↓詩仙舎中太 六斎阿交 蝶吾↓漆園斎蝶吾 長斎 鳥三 丁二↓古二斎丁二 長兒↓風月庵白髭長兒 鈍子亭久波倍 長嘯子↓木下長嘯子 長生園松風寿 長兆↓童葉斎鳥兆 蝶々庵丈長 蝶成↓平 蝶成 朝平 鳥連↓可索斎鳥連 榑園子左笠 千代住↓巨燧山守	41才 40ウ 40ウ 8ウ 26ウ 40才 23才 13ウ 8ウ 23才 26ウ 40才 8ウ 11ウ 11才 34才 53ウ 25才 5才 1ウ 9才 5才 5才 34ウ 34ウ 39才 34ウ 34才 24才 11才 32ウ 34才 10才	〔松舎〕千代住↓歌泉堂真澄 千代松年 対松館↓朋來庵酒亀丸 通 津金胤臣 月住↓松蔭月住 月住↓照亭松園月住 月 窓丸 月の屋林木々丸 〔谷〕月橋↓弦掛一升 月星↓松三堂月星 月町↓柏屋月町 月丸↓雪花園三十日月丸 月盛↓薄庵伏屋月盛 都築菜種 都々久↓文亭都々久 麗躰堂↓六有園鼓成吉 鼓 成吉↓六有園鼓成吉 津鶴↓鐵堂平性津鶴 常成↓朝起常成 常人↓多田常人 恒躬↓螢雪亭恒躬 角 内子〔田鶴丸 妻〕 椿井望輔 鏗丸↓折柳亭葉研鏗丸 津女↓琴 津女 都良喜↓山道都良喜 貫成↓洗卓斎貫成 弦掛一升 鶴成↓芦原鶴成 鶴 菊長 鶴丸↓旭名軒鶴丸 連人 楸園↓松田楸園 貞斎春魯	23才 31才 31才 18ウ 37才 45才 1ウ 37才 34ウ 34才 24才 32ウ 34才 10才
---	--	--	--	---	---	--	---

蹄忍比丘	4才	独吟齋	20ウ	長主	32ウ	忍溪↓僧忍溪	
出来秋↓豊年舎出来秋		德丸↓不捨亭德丸		なかの↓遊女なかの		沼田綾女↓林泉亭沼田綾女	40ウ
田楽↓椒芽亭西郊田楽		德若↓五万齋德若		長髮斗↓一万齋三宝長髮斗		子日松彦	
田々舎倍伍	26ウ	年雄↓新玉年雄		仲乘↓三味園三宝小路仲乘		根春↓琅玕亭與竹根春	
伝芳高酔霞	17ウ	利重↓土岐利重		長彦↓古刀庵忠長彦		野田哇丸	20才
東雲庵一丸	1ウ	年長↓万世楼年長		長房↓藤のや長房		野田蛙	27ウ
東花↓苔間蟹丸		俊古↓千歳亭松俊古		仲程↓坂上庵悟友		後豆永金就↓現金舎後豆永金就	
冬瓜元成	28ウ	俊丸↓素竹齋俊丸		中丸↓速齋中丸		信景↓天野信景	33ウ
桃源亭園丸	36才	都真↓青算舎都真		長丸↓紀長丸		飲亭程好	
東湖↓風折左京有丈		杜石↓田中杜石		長丸↓田原長丸		野村宗二	7才
東向庵旭景長	26ウ	十足齋	25才	長見↓藤原長見		野村不誰	13才
東齋八雞	17才	轟丸↓鶴園轟丸		中道↓藪中道		同 息↓叢々亭義行	
東作↓平秩東作		都成↓大家都成		中守↓古井中守		乘打↓五葉舎不沙汰乘打	
稲士	9ウ	隣 蓼輔	19ウ	永世↓勸善堂竹村永世		梅逸↓掬水園榎木陰	
東窓舎露友	18才	利根裏成↓菜花園利根裏成		名歌好↓芳流齋妹脊名歌好		倍二↓笑樂庵倍二	
陶亭山人	21才	殿女↓八尋殿女		茄子壺紀成	16ウ	佩詩堂↓不断庵大江玉湧	
同導堂福洲	52ウ	巴↓川原 巴		同 妻↓千賀浦女		梅風亭一芳	45才
東壁堂古文	35ウ	伴雄↓入船伴雄		菜種↓都築菜種		はかる↓箕手はかる	2才
東甫↓内藤東甫		灯 本文↓竹志庵七友		夏山茂躬	20ウ	萩野知秋	17ウ
東陽房圃晚	34才	友成↓逸興庵唐歌友成		七辻↓平安亭九重七辻		白鷗亭谷丸	23才
道楽齋志丸	36才	朋信↓五大圃朋信		七葉梶丸↓六条園七葉梶丸		薄庵伏屋月盛	30才
童樂齋島兆	9才	友乘↓宝船友乘		浪女↓浦浪女		麦生亭	
十重女↓霞 十重女		友久↓河辺友久		浪 静丸	23ウ	伯馬↓節分庵本多伯馬	
遠記↓伊勢道遠記		豊女↓雪貫亭豊女	1才	榎 木陰↓掬水園榎木陰		巴交↓晝貞館巴交	
遠日↓夜目遠日		豊臣太閤	24才	成吉↓六有園鼓成吉		土師搔安↓菊泉亭里童	
遠山八右衛門		虎 魚狩	1才	成程↓双駄亭成程		土師 雪↓会稽山人土師雪	
↓現金舎後豆永金就		虎丸↓大鯰庵虎丸	24才	南喬↓至遊館南喬		土師丸↓桃の屋土師丸	
亨↓本街道石川亨		鳥億↓沖名齋鳥億	5才	南笑↓索落齋南笑		秦 土鉞	26ウ
時綱↓真野時綱	8才	内藤東甫		南巢敷成	43才	初風↓大景庵山辺初風	
土岐利重		苗繼↓橘戸亭加茂苗繼		南明	17才	白觀堂↓松寿園有文	
時成↓真坂時成		永石初太郎↓大景庵山辺初風		鳴人↓伽羅鳴人	19ウ	弁興↓自分館弁興	
時 鐘遠	44才	中雄↓双蝶園麻中雄		二水樓二水		服部玄水	11才
時則↓裏打時則		中雄↓葵翠庵坂井中雄		二寿喜↓大小二寿喜	33ウ	花井小鷲	12ウ
時曳速躬↓後佩詩堂右馬耳風		仲女↓周魚亭仲女		日本坊花垂		花乘↓日本坊花垂	
常盤種松↓塚蓋亭常盤種松		長綱↓橘窓亭引窓長綱		如意庵玉野稀成	32才	花 御空↓旭桜亭花御空	

花 本住	37 才	一升↓弦掛一升	藤のや長房	45 才	片絮台曲流↓二水楼二水
浜 塩風〔田鶴丸 息〕	34 才	離人↓千鶴庵離人	節丸↓竹亭節丸	29 才	遍竹斎友之
浜 まさ子〔兼八金 成 妻〕	31 才	離人↓紀 好輔	伏見桃丸	29 才	片帆舎川柳
葉丸↓一見亭婦覺葉丸	31 才	姫柳〔如蝶 妻〕	伏屋月盛↓薄庵伏屋月盛	18 才	望岳↓花林堂望岳
早記	28 才	紐長↓栗廼屋印籠紐長	不捨亭徳丸	8 才	方金園玉清
林 旭堂	28 才	百濟掛雄↓古今亭貞連	藤原長見	24 才	同 父↓飛鳥遠洲
林 木々丸↓月の屋木々丸	22 才	百川斎字海	不誰↓野村不誰	24 才	暮雨巷桜田臥央
鉤成↓鳩懷亭網鉤成	30 才	瓢実園袖風	鳧水亭磨風	10 才	暮雨巷久村眺台
針道字女〔友乘 妻〕	30 才	瓢單園↓西米居未仏	桴雪	53 才	蓬士↓蓬萊蓬士
巴陵	30 才	馮里楼坂下住人〔中雄 父〕	不斷庵大江玉湧	27 才	宝珠庵佳良
春風↓砂原春風	22 才	比良暮雪↓葵華亭比良暮雪	同 兄	2 才	(花香庵)蓬洲↓長生園松風寿
春風↓黃鳥庵春風	38 才	鑄広↓鈴木鑄広	↓後方十園豆永兼八金 成	27 才	同 父↓老多久樂
春 田造	22 才	弘器↓雅流園香窓弘器	同 父↓方十園篠莖玉浦	2 才	同 女↓千賀浦女
春 田造	22 才	広人↓陶亭広人	不斷庵是雄	27 才	宝珠園一角有丸
春久	22 才	枇杷園士朗	筆 軸成	27 才	放生庵巨実
春吉↓明 春吉	20 才	寶導堂響音成	筆丸↓水基園筆丸	38 才	芳岬園阿畑有面
馬六↓楓左房馬六	30 才	同 妻↓塩水清女	鉄万隠者↓金輪齋今谷豆成	25 才	豊年舎出来秋
繁重↓竹時雨庵繁重	30 才	舞雩↓沂水斎舞雩	文敷↓礼楽堂文敷	38 才	方庸↓後藤方庸
繁重楼猛虎丸	20 才	風雅堂玉銚美知丸	文方↓浅瀬文方	22 才	朋米庵酒亀丸
伴俊↓桂 伴俊	37 才	風月庵白髭長見	不夜楼宝玉雄	25 才	同 息↓倦流園桃種人
万照斎其卜	53 才	楓左房馬六	冬野雪満	38 才	蓬萊堅澄↓橙舎蓬萊堅澄
万世楼年長	4 才	風折左京有丈	古井中守	22 才	蓬萊蓬士
半掃庵蠅丸	30 才	笛 音好	古離↓三五楼古離	44 才	方流園 回
繁定↓清水庵繁定	30 才	婦覺葉丸↓一見亭婦覺葉丸	不老園菊人	30 才	芳流斎妹名歌好
蟠頭炭石	5 才	深淵↓勇々館大江深淵	不老園元住	4 才	圃眺↓東陽房圃眺
般若台雲臥	6 才	不暝堂↓雅流園香窓弘器	文煥堂琴詩	36 才	墨僊↓月光亭墨僊
万里↓金菊堂万里	30 才	不朽堂彫安	分家朝起	39 才	墨僊堂黒染衣紋菱光
蟠龍軒緑松雄	12 才	福州↓同導堂福州	文樵	51 才	同 息↓墨 香良
引方↓網 引方	6 才	福 入人↓見小庵福入人	文亭都々久	36 才	同 息↓宝船友乘
引窓長綱↓橘窓亭引窓長綱	35 才	袋 房丸	平安亭九重七辻	39 才	北亭↓月光亭墨僊
ひさ女〔米都 妻〕	9 才	桴月堂二橋	平生為故	24 才	卜隣↓算著亭卜隣
久村眺台↓暮雨巷久村眺台	35 才	不沙汰栗打↓五葉舎不沙汰栗打	平性津鶴↓鑑堂平性津鶴	19 才	北録堂雪住
菱光↓墨僊堂黒染衣紋菱光	35 才	房成↓干糸亭房成	米都↓秋園斎米都	39 才	星丸↓上毛星丸
潜丸↓一龍軒潜丸	35 才	房丸↓袋 房丸	米陋↓免陸庵米陋	39 才	蒲洲↓旗綾館蒲洲
一角有丸↓宝珠園一角有丸	35 才	負山子越人	平秩東作	39 才	
披戸つ↓丸久友披戸つ	7 才			39 才	

暮雪↓凝華亭比良暮雪
牡丹坊↓五息齋牡丹坊
程好↓飲亭程好
堀川庵芳香
堀 竹養
彫安↓不朽堂彫安
本街道石川亭
本多伯馬↓節分庵本多伯馬
真影↓五十栖真影
(片架台)曲流↓二水樓二水
真坂時成
まさ子↓浜 まさ子
真砂女↓整亭真砂女
政常↓美濃守政常
真柴亭八重垣(初印のみ)
増井↓石橋庵増井
真菅↓永日庵真菅
升入↓醉菊庵升入
真隅↓四辻真隅
真澄↓歌泉堂真澄
益盛↓無尽樓米屋益盛
増安↓松梅亭増安
松雄↓蟠龍軒緑松雄
松岡月住↓照亭松岡月住
松蔭月住
松風音好
松風 寿↓長生園松風寿
松田棟園
松胤↓巖 松胤
松年↓千代松年
松 千枝女(寸齋 妻)
松 俊古↓千歲亭松俊古
松舍千代住↓歌泉堂真澄
松葉五友
松彦↓子日松彦

39才
29才
26ウ
43ウ
32才

松久↓緑 松久
松丸↓糸風亭松丸
窓丸↓月 窓丸
真鶴↓芦辺真鶴
学女↓針道学女
真那部道有
真祢久↓吉田真祢久
真野時綱
真彦↓蔵六庵真彦
真帆追風
儘成↓紀 儘成
真間皮成
間々皮成
儘好↓紀 儘好
豆長兼(金)成
↓後方十園豆長兼(金)成
豆成↓金輪齋今谷豆成
丸久友披戸つ
丸吞↓胡椒亭丸吞
丸々↓珠弄堂環丸々
(苔之屋)丸家↓同導堂福洲
丸屋墨湖
稀成↓如意庵玉野稀成
鷹風↓堯水亭鷹風
回↓方流園 回
万卷堂↓後佩詩堂右馬耳風
万卷堂旧巴(耳風二世) 父)
万愚↓僧万愚
万言齋可興↓竹溪堂芝嶺風
万十庵茶陶(初印のみ)
万代石季
万葉仮名文
満陽堂大廟
(山霞亭)三重業↓和楽園春光
御影堂石成

36才
2才
8ウ
31ウ
43才
27ウ
35ウ
31才
49ウ
34才
14才
43ウ

水角奈志
三十日月丸↓雪花園三十日月丸
味息齋紀六林
御空↓旭桜亭花御空
道有↓真那部道有
道芝刈安
道成↓平 道成
道則↓余程道則
美知丸↓風雅堂玉鉾美知丸
三千丸↓坂上三千丸
道行↓菅原道行
三井屋佐兵衛↓無尽樓米屋益盛
三津女(後印のみ)(未仏 母)
緑 龜雄↓寿亭緑龜雄
緑 千尋↓大篋軒緑千尋
緑 松雄↓蟠龍軒緑松雄
緑 松久
源朝臣為龍
源 香美↓橘五園源香美
源 正栄↓清音館龍之調
嶺風↓竹溪堂芝嶺風
美濃紙↓腰障子美濃紙
箕手はかる
美濃守政常
簀行↓古笠庵簀行
未仏↓西来居未仏
耳風↓不断庵大江玉湧
耳風(二世)↓後佩詩堂右馬耳風
耳持↓諸手耳持
宮重太根↓錢五亭宮重太根
妙橋↓権僧正妙橋
無音勝成↓五朝齋無音勝成
葎庵↓松寿園有文
葎 侘住
無孔笛↓潜龍軒小鹿無孔笛

24ウ
5才
41ウ
31才
39ウ
7ウ
24才

夢哉坊
無住大円国師
無尽樓米屋益盛
鞭竹武久↓笹の屋鞭竹武久
六女↓石籠六女
無筆齋緩布
明導法師
明璘
免陸庵米陋
猛虎丸↓繁重樓猛虎丸
茂曾呂↓栲繩茂曾呂
望輔↓円々齋望輔
望輔↓椿井望輔
望月↓下戸望月
持丸↓山田持丸
本荒小萩↓秋錦亭本荒小萩
もと女↓木 もと女
本住↓花 本住
元住↓相生亭元住
元住↓不老園元住
元成↓冬瓜元成
元成↓蛙 元成
元祢↓秋日登元祢
(灯)本文↓竹志庵七友
百朶↓龜楽庵柳百朶
桃 種人↓億流園桃種人
桃の屋土師丸
桃丸↓伏見桃丸
(衣手)森住↓野田畦丸
諸手耳持
諸躬↓左家諸躬
文言舎田丸↓玉流園黄金沢丸
問泰↓樸木園市橋問泰
八重垣↓真柴亭八重垣
柳生↓一陽齋柳生

32ウ
6ウ
27ウ
8ウ
42才
8才
14ウ

